



25th WORLD SCOUT JAMBOREE

2023年8月1日～8月12日

大韓民國全羅北道 セマングム

第 25 回世界スカウトジャンボリー

日本派遣団第 30 隊報告書



Contents

目次

01	第 25 回世界スカウトジャンボリー大会概要
04	第 30 隊 隊員名簿
06	第 30 隊 活動記録
07	参加報告
13	感 想
	13 隊指導者
	15 鹿班
	22 白兔班
	29 MOMOTARO 班
	35 ペンギン班
42	Facebook
75	記念写真

第 25 回世界スカウトジャンボリー (25WSJ) 大会概要

参加大会

第 25 回世界スカウトジャンボリー (25th World Scout Jamboree)

世界スカウト機構 (WOSM) 主催

韓国スカウト連盟・韓国政府・地方自治体を含む

「韓国 25WSJ 大会組織委員会」がホスト



派遣期間

参加区分・分団により異なる日程となった。

<第30隊> 2023年7月31日(月)～8月12日(土) 13日間 (E分団)

大会期間・日程

2023年8月1日(火)～8月12日(土) 12日間

(日程)

7月31日(月) E分団はソウル近郊高陽市で前泊

8月 1日(火) 会場到着

8月 2日(水) 夜 開会式・K-POPコンサート

8月 3日(水) プログラム開始

8月 4日(木) 猛暑でAエリアとCエリアの場内プログラムは中止

*WOSMは組織委員会と猛暑対応を協議

*イギリス派遣団は早期退場を決定

8月 5日(金) 組織委員会は冷房バスを参加者の休憩用に配置

*アメリカ派遣団は早期退場を決定

8月 6日(土) 文化交流日 (K-POPコンサートは中止)

*ジャンボリーフォレストプログラムに日本派遣団から3人の代表参加

*組織委員会はWOSMに閉会式会場変更を提案

8月 7日(日) 派遣団長会議で台風6号に伴う緊急待避を発表

8月 8日(火) 台風6号の朝鮮半島直撃に備えて、25WSJ参加の全派遣団は待避

*日本派遣団は忠清北道・丹陽にある韓国天台宗総本山の救仁寺に待避

8月 9日(水) 待避先周辺の見学プログラム

8月10日(木) 救仁寺内でのプログラム(演舞を鑑賞等)、台風通過

8月11日(金) 午前中に救仁寺出発しソウルで開催の閉会式に参加

*閉会式後、仁川空港に宿泊

8月12日(土) 約半数の参加隊が帰国 (E分団帰国)

大会参加人数・国数

世界スカウト機構（WOSM）正加盟の159の
国と地域他から 合計 43,000人余が参加した

開催地

大韓民国 全羅北道 セマングム

開催地は仁川国際空港から約300km離れており、
シャトルバスで約3時間30分から4時間30分



日本派遣団

派遣団長 出田行徳 日本連盟常務理事

25WSJ日本派遣団 合計1563人

内訳

参加隊35隊1388人（スカウト111人・指導者1人欠員）

スカウト1249、指導者139人

派遣団本部員30人

国際サービスチーム（IST）145人（うち1人JPT）

参加隊の編成

日本派遣団は、参加者の地域を考慮し、また各県連盟のスカウト数に応じた35個隊を編成した。

各参加隊は、スカウト36人（1班9人×4班）、指導者4人（隊長1人、副長3人）の合計40人を
標準とした。

分団の編成

日本派遣団の35個隊は、出発・帰国地および人数を考慮し、6つの分団を編成した。

<A分団> 成田または羽田空港発着 第1隊～第8隊

<B分団> 成田または羽田空港発着 第9隊～第16隊

<C分団> 中部空港発着 第17隊～第22隊

<D分団> 関西空港発着 第23隊～第29隊

<E分団> 関西空港発着 第30隊～第32隊

<F分団> 福岡空港発着 第33隊～第35隊



出発直前準備訓練・結団式・壮行会

日本派遣団は出発地に合わせて準備訓練を行った。これまでの準備のまとめを行い、結団式・壮行会を
実施した。今回の壮行会は出発前の感染症のリスクを避けるため、飲食を伴わない激励会を開催した。

<第30隊>

新大阪ユースホステル・KOKOPLAZA 7月29日（土）～7月31日（月） 7月31日（月）出発

ジャンボリー・プログラム：

4 S + A C T 戦略

ジャンボリーの運営を成功させるために、「4S+ACT」戦略を策定した。

この戦略には、ジャンボリーの4つの目標(4S)が含まれている。

- ① スカウティング・フォー・ライフ ② スマートと科学 ③ 安全（セーフ）と安心
- ④ 持続可能性（サステナビリティ）⑤ 冒険 – ジャンボリーの代表的な活動
- ⑥ ホスト国の文化や伝統を体験できる「文化と伝統」では、それぞれに詳細な戦略を練る

① スカウティング・フォー・ライフ

世界スカウトジャンボリーは、スカウト精神に基づいたプログラムと運営体系を構築している。

組織委員会は、世界スカウトジャンボリーを通じて参加者がスカウト精神を身につけることができるようスカウトの原則と8つのスカウト手法に準拠したプログラムを確立してジャンボリーを運営している。

これにより、参加者のリーダーシップ、チームスピリット、自立心が育まれ、地球規模の問題に対する理解がさらに深まり、積極的な地球市民として成長するための足がかりとなる。

② スマートと科学

スカウト運動と最先端技術の融合によるオペレーションシステムの簡素化、および未来技術にリンクしたプログラムの採用により、参加者の満足度を最大化することができる。

③ 安全と安心

安全なジャンボリー運営に向けた安全体制の構築をおこなう。組織委員会では、全国レベルで会場施設・エリアの安全計画を策定するとともに、予測される危機とその対策を中心としたジャンボリー安全体制を構築する。

さらに、スカウトが危機に対応できる市民となるために、さまざまな安全・防災の事前訓練を実施する。

④ 持続可能性

組織委員会は、全人類に影響を及ぼすこの一般的な問題を克服するために、持続可能な開発目標の概念と戦略を大会の準備と全体の運営に出来る限り適用することによって、やがて未来をリードする若者たちがこの問題に注目するように導くことを計画している。また、世界スカウト機構（WOSM）のプログラム構成である「Better World Framework」のもと、参加者は様々な取り組みに参加することで、自然、平和、コミュニケーション、多様性、結束などについて学ぶことができる。

⑤⑥ A C T: 冒険・文化・伝統

4 Sに加え、冒険、文化、伝統がジャンボリーのプログラムに含まれる。アドベンチャーは、参加者のアクティビティの中で最も好まれるプログラムであり、ジャンボリー会場だけでなく、周辺地域や自然をこれらの体験に結びつけることで、参加者に様々な体験を提供する。文化・伝統では、参加者が各国スカウト連盟の文化や伝統を体験し、アクティビティや展示会訪問などを通じて文化交流を促進する。

第 30 隊 隊員名簿

隊指導者

	氏 名	所 属	学年	性別	備 考
隊長	神庭 尚志	米子第 11 団		男	MOMOTARO 班担当
副長	西山 高治	鳥取第 10 団		男	鹿班担当
副長	高橋 理子	西大寺第 1 団		女	ペンギン班担当
副長	高橋 理恵	西大寺第 1 団		女	白兔班担当 ※ 1

※ 1. 準備訓練中（7 月 30 日）に COVID-19 陽性となり参加を中止した

鹿班 担当：西山高治

	氏 名	所 属	学年	性別	備 考
班長	森 躍翔	倉吉第 3 団	高 2	男	
次長	宮川 れあ	西大寺第 1 団	高 2	女	
	國谷 拓希	米子第 11 団	高 2	男	
	檜村 峻太	都窪第 2 団	高 1	男	
	中島 穂月	津山第 1 団	高 1	男	
	河村 咲希	福山第 2 団	高 1	女	
	中村 健人	鳥取第 10 団	中 3	男	
	山下 詢平	浅口第 2 団	中 3	男	
	浅中 悠大	米子第 11 団	中 2	男	

白兔班 担当：高橋理恵

	氏 名	所 属	学年	性別	備 考
班長	今田 晴帆	出雲第 1 団	高 2	女	
次長	井本 真一	鳥取第 12 団	高 2	男	
	山根 新	西大寺第 1 団	高 2	男	
	三原 昊大	米子第 11 団	高 1	男	
	武田 樹	鳥取第 10 団	高 1	男	
	寄川 大樹	米子第 11 団	中 3	男	
	吉村 悠花	鳥取第 7 団	中 3	女	
	山下 航太郎	浅口第 2 団	中 3	男	
	妹尾 幸星	都窪第 2 団	中 2	男	

MOMOTARO 班 担当：神庭尚志

	氏 名	所 属	学年	性別	備 考
班長	松田 香穂	松江第 1 団	高 2	女	
次長	北原 怜	津山第 1 団	高 2	男	
	浅中 淳志	米子第 11 団	高 1	男	
	尾崎 健汰	鳥取第 10 団	高 1	男	
	川本 悠人	西大寺第 1 団	中 3	男	
	井上 尊生	西大寺第 1 団	中 3	男	
	但井 明香里	鳥取第 7 団	中 3	女	
	天野 佑紀	都窪第 2 団	中 2	男	
	福住 陽路	米子第 11 団	高 2	男	※ 1

※ 1. 準備訓練中（7 月 30 日）に COVID-19 陽性となり参加を中止した

ペンギン班 担当：高橋理子

	氏 名	所 属	学年	性別	備 考
班長	土井 麻理奈	津山第 1 団	高 2	女	
次長	村本 和紀	倉吉第 3 団	高 2	男	
	山脇 阿紋	鳥取第 10 団	高 2	男	
	山本 莉輝	米子第 11 団	高 1	男	
	足立 将悟	米子第 11 団	高 1	男	
	鷺見 洸吏	倉吉第 3 団	高 1	男	
	有田 彩香	鳥取 12 団	中 3	女	
	湯原 啓二郎	西大寺第 1 団	中 3	男	
	三宅 蘇芳	都窪第 2 団	中 2	男	

日本派遣団 E 分団 CMT

	氏 名	所 属	学年	性別	備 考
分団長	坪井 喜久太	岡山連盟		男	実行委員
分団員	高石 真由美	愛媛県連盟		女	本部員
分団員	比地原 草平	日本連盟		男	本部員

第 30 隊 活動記録

2022 年

12 月 11 日 第 1 回保護者説明会 鳥取市・末恒地区公民館

2023 年

1 月 9 日 第 2 回保護者説明会 米子市・産業体育館

1 月 21 日 第 3 回保護者説明会 岡山市・上道公民館

3 月 25-27 日 派遣事前訓練 備前市閑谷学校

7 月 5、8 日 派遣直前説明会 リモートで 2 回開催

7 月 29-31 日 派遣準備訓練 新大阪ユースホステル

7 月 31 日 関西国際空港からアジアナ航空機 OZ111 便で韓国・仁川空港へ
高陽市の YMCA で宿泊、市内散策

8 月 1 日 仁川空港から大会バスで 25WSJ 会場へ向かい、サブキャンプに入る

8 月 1-7 日 25WSJ 大会会場で活動

8 月 8 日 台風 6 号の接近により避難のため忠清北道丹陽郡の救仁寺へ移動する

8 月 9-10 日 9 日：市内観光、10 日：寺院内で伝統芸能等を鑑賞

8 月 11 日 ソウル市内へ移動して閉会式・K-POP コンサートに参加

8 月 12 日 仁川空港からアジアナ航空 OZ112 便で関西国際空港へ
関西国際空港で解散

参加報告

8月1日の午後、大会会場第4ハブの16サブキャンプに到着した。強い日差しとむせかえるような湿度の中、割り当てられた区画に移動し、設営に取り掛かった。ジャンボリーのスタートだ。配布された備品を確認し、宿泊用のテントを建て、夕食を済ませたところで、一日目は終了となった。

会場の実情

この会場に来るまでに、様々な情報が入ってきていた。

「暑い」「日影が無い」「トイレやシャワーが少ない」「Wi-Fiが使えない」「2日前に1時間雨が降ったら一面が水浸しになった(右写真)」等々である。中でも先発で参加しているISTからもたらされた「雨で水浸し」の情報には不安が募った。テントの下に10センチほどのパレットを敷くことになっていると聞き、取り敢えずは安心した。実際には好天が続き、雨が降る事は無く、水没するような事態には至らなかった。むしろ乾燥が進んだためにテントサイトは乾いた砂場の状態となっていた。



写真：2日前に雨が降った後の様子（IST 提供）

到着後に感じた点は、インフラ構築の拙さであった。

トイレやシャワーの数が少なく、常に混雑していた。また、トイレの機器故障が多く発生していた。トイレトーパーの補充が遅く管理が行き届いていない状況があった。シャワーや水汲み場の施工が今一つ機能的でなく、衛生面の劣化も見られた。発生するゴミについては分別回収されていたが、回収頻度が少なく集積場にゴミが山と積まれる事態を頻繁に見かけた。

提供される予定のWi-Fiが十分に機能しておらず、大会の運営にすら変更が生じていた。この影響は大きく、指導者同士、また、スカウトとの連絡が満足に取れない状態となった。通常のキャンプ生活であればスマートフォンが機能しない状況が大きな影響を生じさせることはない。しかし、広い会場の中少ない指導者で対応している際に連絡が取りあえない状況は隊員のサポートに支障をきたした。

大会から支給される予定の機材や資材についても、支給されない物が有った。(特に予定されたマーキーのサイドウォールが支給されず困ったが、31隊から余剰品を融通していただき、助かった。)

資材支給の案内がされず、問い合わせに行くと指示されて入手が出来るような事がいくつも有った。

インフラの不備は他にも見受けられた。雨が降った際の対策として側溝が整備されたことになっていたが、実際には大会開始後にも重機が掘削作業をおこなっていた。蚊を含む害虫駆除のために薬剤散布の車両が始終走り回っていた。会場内をシャトルバスが運行していたが、台数が少なくほとんど乗車できない状態が続いた。(これは後に若干、改善された) 食材の配給が時間的に大きく遅れることが有った。また、数量が間違える事態(我々の隊でも有った)、さらにはアレルギー対策が守られない支給内容(我々には被害なし)、食材にカビが発生たり腐っている(我々には被害なし)、などのトラブルも生じていた。

会場の配置とキャンプサイト

大会会場はハブと呼ばれる5つの居住区(ハブ)と4つの活動区域で構成された。

参加隊(スカウトと指導者)の生活する4つのハブは18のサブキャンプに分けられ、キャンプサイトの管理や配給、トイレやシャワー、水場やゴミ収集などはサブキャンプで管理・運営がされた。5つ目のハブはISTやCMT等大会を支援する成人指導者の生活区画で、参加隊スカウトの立ち入りは制限されてい

た。それぞれのハブにはコンビニとジャンボリークリニックが設置され、日用品の購入や傷病者の医療対応が行われた。

我々は16サブキャンプの27隊（通称16-27）に配置された。両隣は韓国隊とイタリア隊、背面はオーストラリア隊、正面はスウェーデン隊であった。

4つの活動区域は場内プログラムがおこなわれるA、B、Cの3つのセクターと、アリーナや各国派遣団本部が置かれたデルタエリアが設置された。デルタエリアにはメインアリーナ、各国派遣団本部の他にジャンボリーホスピタル（中央病院）、コンビニ（中央店舗）、スカウトショップ（用品と記念品などの販売）銀行の出張所等が設置された。デルタエリアは会場全体の中央部に設けられていたが、我々のサブキャンプからは徒歩で40分ほどの距離だった。

猛暑のために場内プログラムの開催が抑制されたため、デルタエリアのスカウトショップや中央コンビニは常時混雑していた。入場制限がかかり、長時間待たなければ入場できない状態が続いていた。



熱中症について

大会開始から猛暑が続き、湿度が高かったために、熱中症が多発した。一日あたり800人余りがクリニックやホスピタルで対処を受けた日もあり、開会式の際には100人が搬送されたとの情報も有った。会場の各所で水分補給のための水が配られ、食事ごとにペットボトルの水が追加で支給されるようになった。熱中症予防のため場内プログラムの開催が制限され、実施されないことも頻繁に生じた。

日々の生活

日々の生活や場内プログラムへの参加は班単位でおこなうこととした。班の運用（仕事の振り分けや担当など）は各班で相談して進めることとした。配給の受け取りなど、隊でおこなう仕事は、班長の相談により各班の持ち回りでおこなう事となった。隊のサイトから出て、トイレやシャワー、水汲みやゴミ捨て等を行う際はバディ（二人組）、もしくは複数で行くこととし、単独で隊のサイトを離れることはしないように取り決めた。

隊のサイト整備は全体行事や割り当てられたプログラムへの参加を考慮して、ゆっくりと進めていくことにした。「標準日課」は設定せず、翌日のスケジュールを見て、設定していった。サブキャンプ本部から得られた情報や、注意事項、他の派遣隊やISTメンバーから得られた情報などは全隊員に周知していった。あえて班長経由の伝達にはせず、朝夕の食事で全員が席に着いた際に伝達した。また、班で参加する場内プログラムの選定や行動については、班内での相談に任せ、班の意思を優先した。

各班ともそれぞれのペースで生活の体制を作っていった。しかし、ある程度生活が廻るようになると「慣れ」や「癖」が顕在化し、様々な形で班運営が揺らいでゆく。5日目（8月6日）に全員集まってこれまでの振り返り、再スタートのきっかけとした。

会場入りして以来好天が続いたことにより、会場では熱中症の患者が多発していた。日中はほぼいつでも、さらには夜間でも救急車が走り回っているような状況であり、我々の隊でも2人がクリニックで処置をうけた。また、場内プログラムへの参加を見合わせ、隊サイトで休養するスカウトもいたが、いずれも軽度の症状であり、回復後はすぐに活動が再開できた。



キャンプサイトには掲揚柱を建て、日の丸と鯉のぼりを掲げた。サブキャンプ内で良い目印となり、来訪者に「日本隊」をアピールした。また、30隊のスカウトからも、隊サイトの位置が判り易いと好評だった。

隊サイト内に物干し場（三角推型）を作成し、洗濯物を干す場として活用した。鳥居型のゲートを作成し、日本隊をアピールした。事前訓練で作成した各班の横断幕を置き、隊のサイトを強調した。これらの構築物は、前述のとおり活動の合間に少しずつ構築していった。

COVID-19の影響（参加前）

今回の派遣隊は40名で参加する予定であった。しかし、7月29日からの準備訓練中にスカウト1名と副長1名が発熱し、COVID-19の陽性者と判定され、参加を急遽中止する事態となった。

大会への出発直前での事態にとっても残念であったが、参加させることはできなかった。

副長については、派遣団本部要員からの補充を要望したが叶わず、大会期間中3名の指導者で隊の運営することとなった。後に、スカウトが熱中症でクリニックにかかる際やイベントへの参加、場内・場外プログラムへの参加、COVID-19対応などで指導者の対応がひっ迫する事態が多々発生したが、日本派遣団の多くの隊でも同様の事態（COVID-19による離脱や付き添いでの対応）が発生し、我々だけへの対応は望むべくもなかった。

30隊の班編成に於いては、年齢、性別、所属原隊がいずれも偏らないように編成をした。3月の事前訓練で編成し、班名や班員の順番、役割などは各班で班員が相談して決定した。

事前訓練や準備訓練の際には、班での相談や意見交換、計画作成の時間を多くとり、コミュニケーションの取れる班づくりを目指した。班長、次長が良く取りまとめてくれた。

ジャンボリーの活動、プログラムについて

今回のジャンボリーでは、各隊が参加できるプログラムは事前に割り当てられており、この予定は変更できないシステムだった。

場外プログラムはチケット制で、割り振られた日時に、割り振られた内容へ参加する方式だった。

場内プログラムについては3つのセクター（区域）が設定され、それぞれのセクターに用意された様々なアクティビティの中から好きなものを選んで挑戦する方式だった。

場内プログラムは、挑戦したアクティビティの種類や数に応じて記念のアワード（褒章）が得られる仕組みになっていたが、熱中症対策として開催が制限される状態が続いたために、アワードの取得は不可能なものとなった。また、イベントの開催やプログラム開催状況についての情報が広報されず、隊のサイトでは会場全体の状況を知る事が出来ない状態だった。大会本部からの情報発信はほとんど無く、サブキャンプ本部からの情報も極めて少ないものだった。サブキャンプ本部でおこなわれる隊長会議の席でプログラムや運営に関する問い合わせがされても、「それは運営（本部）の問題で、サブキャンプでは答えられない」というばかりであった。

情報が無いため、広い会場の遠いセクターへ出かけて行ったもののプログラムが中止されていて参加できない事が有った。

全体イベントとプログラムへの参加

8月2日の夜、開会式が行われた。当日朝からメインアリーナは厳重な警備態勢がしかれ、入場に際しては金属探知機の通過と手荷物検査が実施された。開会式では尹錫悦（ユン・ソクヨル）大統領が挨拶をされた。開会式の後、コンサートやドローンショーなどが行われ、参加スカウト一同が大会の開始を実感したイベントであった。

今回のジャンボリーではセレモニーに併設されたコンサートなどのイベントが派手な演出になっていると感じられた。従来「ジャンボリー大集会」とされてきた全員参加のイベントは「K-POP コンサート」とされ、全編タレントによるコンサートイベントが予定された。このコンサートは台風からの避難のため閉会式後のイベントに変更され、閉会式とコンサートのどちらがメインイベントなのか判らないような運営となっていた。

多くの参加スカウトはこの K-POP コンサートを楽しみにしており、2 時間余りのコンサートは大いに盛り上がっていた。

期間中に第 30 隊が割り当てられたプログラムは、場外プログラム 2 件と場内プログラムが 6 セクター（A、B、C のセクターを各 2 回）であった。実際には会期を残して会場を離れ避難したため、場外プログラム 1 件と、場内プログラム各セクターに 1 回ずつの参加となった。

場外プログラムは、8月3日の「Buan Gosapo Forest Rope Course and Marine Activities」に参加した。場外プログラムへは隊全員での参加をした。このプログラムは、海岸での水泳と林間のアスレチックコースへの挑戦をおこなった。8月4日、5日、7日は場内プログラムへの挑戦が割り当てられていた。各班で相談して選択したプログラムへの挑戦をしたが、熱中症対策として開催中止となったプログラムが多く、思ったようには挑戦ができなかった。それでもクライミングやスラックライン、乗馬に挑戦したり、工作（鍋敷き作り）に参加したりしていた。プログラムが中止となった際には、スカウトショップで記念品などを探したり、他国のスカウトに声をかけ、記念品交換などをしながら交流をしていた。プログラムが無くても、自分たちの目標のひとつである「外国スカウトとの交流」「積極的なふれあい」を楽しんでいた。

8月6日は特別な日である。Culture Exchange Event（文化交流デイ）として、参加隊が自国の文化を紹介し、相互に体験する日である。我々の隊は「日本の昔遊びとお抹茶のふるまい」を企画し、提供した。

「ゴムでっぽうの射的」「輪投げ」「けん玉」「福笑い」「折り紙（つる）」「お抹茶」を準備し、来訪してくれた方々に体験していただいた。30 隊のサイトへは多くのスカウトが訪問してくれて、盛況だった。

30 隊のスカウトたちも様々な国の隊サイトへ出向いて体験をした。他国のサイトを訪れたスカウトたちは、変った食べ物に驚き、ゲームを楽しんだりボディペイントをしてもらったりと、文化の違いを感じて楽しんだ。

台風 6 号の影響、COVID-19 の影響（期間中）

7 月 28 日に発生した台風 6 号が韓国に接近し、8 月 10 日ごろ朝鮮半島に上陸する可能性が高くなった。

8 月 7 日、すべての参加隊は会場を離れて指定された施設へ避難することが決定された。

8 月 8 日、日本派遣団は忠清北道丹陽郡の救仁寺（クインサ）に避難した。大会の用意したバスでの移動であったが、我々のバスは 7 時間弱の時間を要し、到着は 21 時を超えていた。同時刻に会場を出発した 32 隊は 19 時過ぎにクインサに到着していた。

我々は到着時刻が 21 時を過ぎたため、夕食を食べる事ができなかったが、他の隊から手持ちの食料を提供していただき、夕食とした。（第 11、19、25、27、29、34 の各隊様ありがとうございました。）隊長会議の際の情報によれば、食料を持参するように指示を受けたサブキャンプも有ったようだが、我々にはその様な指示は無かった。大会運営の混乱によるものと思われる。

この日のバス移動の際に発熱者が有り、クインサ到着後の検査で COVID-19 の陽性者と判明した。

8 月 11 日の「閉会式+K-Pop コンサート」はソウルのサッカースタジアムで開催される事になり、それまではクインサで待機することになった。

クインサでの生活は、男女別に講堂や大広間での雑魚寝スタイルで、食事はクインサの食堂を利用した。徐々に COVID-19 の罹患者が増加し、診療と隔離療養が実施された。長時間のバス移動や雑魚寝の環境であり、発熱者の急増が有った。

30 隊でも 8 月 8 日に確認されたスカウトの他にも 1 名が COVID-19 の陽性者と判断された。いずれのスカウトも医療機関に収容はせず施設内で療養し、12 日に全員で帰国した。

クインサでは現地の方から食品の支援やプログラムの提供をいただいた。

8 月 9 日には市内観光で近隣の施設や風景を見て回った。

8 月 10 日は台風の影響で外出できなかったが、クインサ内で地元の舞踊や歌唱、パントマイムなどを鑑賞した。

本来のジャンボリー参加日程では韓国の文化や街に触れる機会が少なく、7 月 31 日の夜に 2 時間ばかり宿舎から出て市街地を散策する程度しかできていなかったが、図らずもクインサでの 2 日間は韓国の文化や風景に触れる機会となった。



閉会式からそのまま帰国へ

8月11日はバスでソウルへ向かい、「閉会式+K-Pop コンサート」に参加した。COVID-19 陽性者も制限付きで参加することになり、全員で参加することができた。

「閉会式+K-Pop コンサート」終了後、バスで仁川空港へ移動し、空港内で仮眠、予定通りの便で帰国した。関西空港で解散となり、貸し切りバスで帰省した。

大会会場からクインサへの移動、クインサからソウルへの移動や閉会式会場から仁川空港への移動はすべて貸し切りバスを使用した。が、いずれも窓を開けることができず、密閉された空間で長時間の移動をおこなった。クインサ到着後はマスクの着用や手指消毒の奨励をおこなったものの、雑魚寝の環境や移動の際に COVID-19 陽性者も同じバスに同乗したこと等は COVID-19 感染拡大の一因と推測する。

帰国後新たに4名のスカウトと1名の副長が COVID-19 陽性と確認された。

8月20日現在、全員が快方へ向かっている。

SNS での情報発信

期間中 Facebook と Instagram で参加隊の情報を発信した。保護者の方、参加スカウトの所属団の方々にスカウトの状況、ジャンボリーの状況を伝えることを目指した。

高橋理子副長が担当し、尽力してくれたおかげで継続的に情報発信をすることができた。

感想

隊指導者

隊長 神庭尚志

「25WSJ」に参加して」

暑い、この湿気はなに！ 会場に到着し、バスを降りた時に感じたのは、蒸し暑さだった。

今回のジャンボリーは、不安だらけである。国内、国外のジャンボリーを通じて、初めて派遣隊の隊長を引き受けた。英語が得意ではない自分がまともに交渉できるだろうか。スカウトたちも COVID-19 の影響で長期キャンプを体験していない。会場は雨が降ると排水ができず水浸しとなるようだ。自身が 7 月 18 日に COVID-19 陽性となり何とか回復したばかりである。等々、不安ばかりが募る。そんな不安を抱えながらも直前の準備訓練、出国を経て会場に到着、ジャンボリーが始まった。

幸いにも天候には恵まれ好天が続いたが、猛暑となりまた常に湿度が高く、体力気力を削がれるものとなった。同じサブキャンプのごく近い場所に朋友の隊が居たことは、とても心強くありがたかった。暑くてしんどい環境の中でもスカウトは元気で楽しそうに活動できており、その姿が嬉しかった。事前訓練などで「他国のスカウトと交流したい」「他国の文化に触れてみたい」との意見が多かったが、どのスカウトも積極的に外国スカウトに話しかけ、記念品交換やサイト訪問などをする姿を見ると、頼もしく思えた。世界を目指せるスカウトたちだ、と感心した。

サブキャンプの韓国人スタッフは親切な対応をする方が多く、助けられた。特に日本語を話せる KIM さんと仲良くなった。近くを通りかかるたびに「何か問題は無いですか？」と聞いてくれ、対応してくれた。LEE さんにも片言の英語でお願いをすることが有ったが、丁寧に対応してくれた。韓国という国にはあまり良い印象を持っていなかったが、スカウト同志触れ合うことでずいぶんと印象が変わってきた。

台風の接近で場外の施設へ避難することとなり、会期途中の 8 日に会場を後にした。11 日に閉会式と K-POP コンサートが行われ、全日程が終了した。

当初は予定の会場でキャンプをしながらジャンボリーのプログラムに参加する形をとったものの、熱中症対策などでイベントやプログラムの中止や延期が相次ぎ、台風対策の避難以降は観光と文化体験になり、およそ世界ジャンボリーに参加した気分にはなれなかった。そんな中でも自分にできることを探し、楽しんでいるスカウトたちを見て、少しは安心したものだ。

最後に、イレギュラーな出来事も多く発生しましたが、その都度共に対処対応してくれた副長の皆さんには感謝しています。ありがとうございました。

副長 西山高治

「25WSJに参加して」

今回行われた 25WSJ に参加して思ったのは、日頃のキャンプ生活や活動、普段の生活がとても恵まれていたということを確認したことである。暑さや湿度はある程度想定していたものの、それ以外の不便さを感じたとき、普段の生活が恵まれていたかを感じることができ、ありがたく思ったことを覚えている。スカウトにも、不便さに目が行って不満を言うより、日頃がどれほど良かったかを再認識してくれば良いと思っている。

また、急遽セマングムを退去することになった時に、準備時間もない中で受け入れて頂いた救仁寺の方には、感謝を伝えたい。

もう 1 つ強く印象に残っていることは、サブキャンプで行われた会議に隊長の代わりに参加した時のことである。日常会話ぐらいは話せると思っていたが、会議の中でリスニング力の無さを痛感した。配布資料なし、ホワイトボードにも記載なしの状況で、明日の連絡事項を聞き取り、それを隊へ持ち帰って伝えるということは、かなり苦労した。自分が言いたいことは言えても、ネイティブの速度で相手が何を言っているのかを理解することはとても難しいことがよく分かった。23WSJ で I S T として参加した時には母国開催だったので感じなかったが、今回は「英語が話せる」という意味を理解するにはきつい試験だった。もう一度、リスニング力を鍛えたいと思った。

と書いてはみたが、スカウトは楽しそうに活動していて、交換も写真も順調にしていたようで、安心した。これが次のポーランドでの 26WSJ、その先の WSJ に続いてくれることを願うばかりである。

副長 高橋理子

「25WSJを終えて」

私はこの 25WSJ で沢山の大切なことを学んだり、気づけたりすることができた。例えば、指導者同士でしっかり関わりを取り情報共有をすることでスカウトを最大限楽しませてあげることができた。ローバーの仲間との助け合うことで私が困っているときに協力をしたり、支え合ったりすることができた。など様々である。今回のジャンボリーは様々な問題が多くあった。そんな中でもみんな協力し合いながら充実した野外生活・ジャンボリーを過ごしていただろう。スカウトを通して学んだ大切なことは、私自身、ボーイスカウトを始めてボーイスカウトに熱を注ぎ込みだしたのはジャンボリーがきっかけである。そのため、隊のスカウトにはどんな状況が待っていたとしても「参加してよかった」「もっとボーイスカウトをしたい」と思ってもらえるようにすることを目指していた。大会中は指導者として、先輩としてスカウトと関わりやすい位置にいるようにした。スカウトとコミュニケーションはよくとることができた。スカウト 1 人ひとりのこともよく分かるようになった。スカウトを楽しませることもできた。しかし、それは、先輩としての立場になっていたと思う。その時指導者の難しさを実感した。25WSJ で初めて指導者という立場を経験させてもらったので、この反省を活かし今後指導者の立ち振る舞いなどをしっかり学んでいきたいととても感じることもできた。

私は 30 隊の SNS を担当していた。たまに更新が遅れたしまったことはとても反省している。しかし、帰国後多くの保護者から「SNS でしか子どもの様子が分からなかったの SNS を動かしてくれてほんとによかった。」という言葉が頂くことができ本当にうれしかった。班が 4 つあったのでそれぞれの班の活動の様子を撮れなく、SNS にあがる人が固定化しやすかった。そのためもっとスカウトに呼びかけをする必要があったと思った。

25WSJ は私にとっても初めての経験をした野外活動であった。今回のジャンボリーを通して Be Prepared<そなえよつねに>が一番大切なことを実感した。

森 躍翔

「世界ジャンボリーに行ってみて思ったこと」

僕は鹿班の班長として活動していてとても楽しかったです。僕は班長だったからこそがんばれたと思います。

班長がずっと不安でいたら他の班員も心配になってしまうから、せめて僕だけは明るく、前向きで、堂々と過ごそうと心がけていました。その結果もあって僕はこのジャンボリーで誰よりも一番楽しんだ自信があります。人の上に立ってみて初めて見える景色もあり、自分を成長させるいい機会になりました。

ジャンボリーで一番楽しかったことは、海外スカウトとの交流です。イタリアのスカウトとは、一緒にサッカーチームの応援歌を歌ったり、パスタを作ってもらったりして楽しむことができました。特にタイ人のスカウトと仲良くなりました。きっかけは仁川空港でワッペンを交換したことからはまり、インスタで連絡をとっているうちに仲良くなり、最終日に30隊のテントまで遠いところから1時間かけて会いに来てくれました。そこでタイのムエタイのズボンをプレゼントしてくれました。とってもいい思い出ができました。海外とつながるって言語も違いイメージの中では難しいことだと思っていたけど、心が通じれば仲良くなれることを感じさせられました。海外スカウトとの交換もワッペンやチーフ、カバン、その国のものなど、合わせて104個、交換することができました。

今はもうジャンボリーでない普通の生活がもどrittつありますが、まだ普段の生活に違和感があります。ジャンボリー中ならば朝、太陽が登ってくるのをみながら配給を取りに行ったりしていたけど今では、ご飯も自分で作らなくて良くて違和感を感じてしまいます。また今でも毎日5時に起きてしまったりしてしまいます。ジャンボリーが名残惜しいです。無意識にジャンボリーも写真を見返したり、ワ

ッペンとか調べてみたりしてしまいます。次のジャンボリーはISTで行きたいと思いました。

本当にいい経験ができ、自分自身も成長させることができました。ありがとうございました

宮川れあ

「25WSJの感想」

私が、この25WSJに参加して良かったことは、海外の人と仲良くなれたことです。最初は、海外の人と話すことに慣れていなく、英語を話して、もし海外の人にうまく通じなかったらと思うたり、相手の話していることが理解出来なかったらどうしようと考えてしまい、自分から積極的に話かけることが出来ず、同じ班の子と一緒に話しかけに行って、交換してもらうことばかりでした。ですが、後半になってくると、自分から話しかけに行ったり、トイレやシャワーに行くときにも通り過ぎる人に、挨拶したりすることが出来て良かったと思います。また、最終日にワッペンや小物を交換品として、お店を開くことも出来て、自分が欲しい物と交換出来たら嬉しいし、海外の人と交流もできて、少しではあります。ですが会話をすることも出来たので貴重な経験だったと思います。また、韓国の食べ物もすごく楽しみで1日目のトッポギが美味しかったのを覚えています。他に、ビビンバもありましたが、タレを全部入れるとすごく辛くてさすが韓国だと思いました。次に、25WSJで辛かったことは、トイレやシャワーなどの衛生面です。1日目はそんなに汚いとは思いませんでしたが、2日目のお昼ごろからトイレは、匂いがきつかったり、水が流れなくて、そのせいで虫がたくさんいて、排泄がうまく出来ない時もありました。シャワーは、砂がたくさん溜って水が流れずらかったり、シャワーの水が出るところと出ないところがあって、そこも困りました。他にも、今回のジャンボリーは、例年と違う所が多く、体調不良者も続出して、途中心が挫けそうになることもありましたが、なんとか、閉会式まで頑張る事が出来ました。閉会式では、楽しみにしていたK-POPのLIVEも行われました。このLIVEは、中止になるかもしれないと言われていたもので、ガッカリして

いましたが、開催すると言われて嬉しかったです。実際にみると、凄くかっこよくて25WSJのために来て、生で披露してくれて凄かったです。

國谷拓希

「世界スカウトジャンボリーの感想」

僕は日本派遣団として初めての世界スカウトジャンボリーに参加した。参加すると決まった時は日々訓練に来てない人でも参加出来てしまうのかと不安だったが楽しみの方が勝ってしまった。訓練キャンプの時には中国地方の派遣団員と初めての顔合わせをしたが初めてみる顔や日本ジャンボリーで会った顔の人もいた。正直自分だけじゃなく同じ鳥取の人も多くいたから安心した。最初は誰が年上で誰が年下かなど色々なことを考えていたが接してみるとあまり気にしなくなった。本番前の合流では馴染みのある顔が多くなっていて嬉しかった。そこで新しい友達や同じ班の中でも壁が無くなった。本番までの道中は楽しかったし、何より久々の海外渡航で気分が興奮していた。韓国に着くとそこは英語よりハングル語が目立ち不安だったが何とか乗り越えた。最初のホテルでは同部屋同士仲良くなれこれから先は大丈夫と確信した。いよいよ会場に入ると異国の雰囲気は漂い、さらに興奮を引き立てた。早く海外のスカウトと交流したい面もあったが気持ちは抑え、設営に励んだ。

開会式はとてつもなく豪華だと感じ日本ジャンボリーより活気が熱くワクワクが止まらなかった。その日は興奮してあまり寝れなかった記憶がある。

ジャンボリー内のプログラムでは班員のメンバーと共に活動に参加したかったが熱中症警報のおかげであまり参加できなかったのが悔しい。唯一のプログラムは大いに楽しめたと思う。しかしまさか台風で大会が中止になるとは思わなかった。中途半端でいろいろ問題にはなっていたが自分はその中でも嫌味ひとつ言わず楽しめた方だと思う。これには感謝だ。救仁寺に行く時はどうなることやらと不安+心配もあったがその心配は不要だったようだ。日本派遣団1500強の人が集まるとい安心するものだ。救仁寺は急な措置だったがスカウトのために尽くしてく

れ感謝感激だ。また雑魚寝かとは感じたが仕方がない。寝れる環境があるだけマシだ、と考えていた。いろいろこれまでスカウト間などで問題もあったがいざ帰ってみるととても貴重な経験だった。

僕は一緒にの派遣団の友達と今度の世界スカウトジャンボリーはISTとして共に参加しようと誓った。それぐらい自分に影響を与えるかスカウト活動だったと実感した。これに行くと決めた時、支援してくれたスカウト、家族、指導者にもう一度感謝を伝えたい。ありがとう。

檜村峻太

「第25回 世界スカウトジャンボリー」

7月28日～30日 大阪

E分団総勢約120人が大阪に集まり3月に顔を合わせた自隊以外に他隊のスカウトと顔合わせをし、3日間で日本派遣団のスカウトと親睦を深めることができた。

7月31日 韓国着(コヤン)

インチョン空港で税関を出たところに外国のスカウトが大勢いたのを見て、最初は戸惑った。空港がスカウトで埋め尽くされている状況を見たことがないからだ。その後の宿泊場所での食事や周辺探索で韓国を十分に満喫した。

8月1日～8日 ジャンボリー

予定より4日短い大会であったけれど初日から隊の皆と協力しテントサイトを設営し、韓国料理などの自炊、近くの外国サイトのスカウトと交流を行い、ついにジャンボリーが始まったことを実感した。プログラムに行ったり、外国のものが食べられるフードコートに行ったり、そこでも海外スカウトと交流でき、たくさんの経験を培えた。開会式での盛り上がりや文化交流DAYで海外文化を体験、今まで経験したことないような事ばかりだった。

8月8日～11 救仁寺(タニャン)・閉会式(ソウル)

台風の影響で避難を余儀なくされ日本派遣団約1500人が同じ場所に集まり、たくさんの日本人と交流できた。また観光や韓国舞踊を鑑賞し、まだ触れていない韓国文化に触れることができた。

閉会式では人生初ライブでありながら大人気のK-

POP アイドルたちを観ることができ、初にはもったいなすぎる経験だった。

今回のジャンボリーでは非現実的体験ができた。しかしジャンボリーを完全に楽しむことができなかった。なぜなら、衛生環境がとても悪く、酷暑で熱中症や感染症を多くの人が訴えるほど運営側が万全ではなく、プログラムも想像していたものとはかけ離れていた。その中でもどう楽しくし、いい経験にできるか試行錯誤しながら生活していた。自分は少し英語には自信があったので積極的に海外スカウトに話しかけた。大会が終わっても連絡を取り合っている海外の仲の良い友達もできた。これからのスカウト活動で経験したことをたくさん活かせると思う。4年後のWSJにもISTとしてチャレンジしたいと思う。

中島穂月

「第25回世界スカウトジャンボリーについて」

今回の世界スカウトジャンボリーで私は、様々なことを学びました。まず、準備段階のことです。私は、準備を始めるのがとても遅かったせいで少し焦りながら準備をしてしまいました。今後は、もっと早めに行動を始められるように動いていこうと思います。

次に、大阪に着いてからです。久しぶりに班のメンバーにあって活動したのですが、久しぶりだったこともあり班の空気感がつかめずあまり班になじめずにいたのですが、班長をはじめ班のメンバーがきさくにはなしかけてくれたのでだんだんと班になじんでいくことができました。

韓国のホテルは、内装がとてもおしゃれで料理もとてもおいしかったです。韓国の町並みは、ホテルと同じようにとてもおしゃれでデパートもとても大きくたくさんの商品が売ってあり、私が住んでいる地域との違いに何度も驚かされました。道路には、いくつも電動の乗り物が捨てられたようにおいてあり、ジュースの味は、日本と違い個性的でとがった味をしていました。

世界スカウトジャンボリーの会場は、ついたときはまだ地面が乾ききっておらず、水はけの悪さから大会中雨が降ったらひどいことになるだろうなあと思っていました。また、初日からトイレの中は、泥だ

らけで、この先大丈夫かなと心配しました。二日目になると、地面もだいぶ乾いていて、外国のスカウトとの交流も増えました。外国のスカウトは、ほとんどの人がノリよく英語が苦手な私でも、気楽に交流することができました。また、スカウトショップなどに行っているときには、ほかの日本派遣団にも会いました。みんな個性豊かで、話していて話題がつきそうにありませんでした。

アクティビティにはあまり参加できませんでした。移動中に話しかけてくれたり、文化DAYでうちのサイトに来てくれたスカウトとの交流がとても楽しかったです。今回の世界スカウトジャンボリーは、衛生環境がとても悪かったり、途中で会場にはいられなくなってしまったりと悪い面もありましたが、初めて海外に行けて、たくさんの外国のスカウトと交流ができてとても楽しかったです。

河村咲希

「25WSJの感想」

第25回世界スカウトジャンボリー大会が韓国のセマングムで開催され、私は8/1～8/12の12日間参加しました。

世界ジャンボリーに参加して、世界中の人々と交流を深められた事が最高の思い出となりました。たくさんの国のスカウト達と会話をし、ネッカチーフやワッペンなどの交換をしました。やはり日本語は伝わらず、英語で話さなければならないので、難しい場面が多かったけど、私の英語でもなんとか身振り手振りを交えて伝わったので、驚きもありながら、嬉しさの方が大きかったです。英語をちゃんと話せるようになるのもっとたくさん伝わるし、もっともっと楽しめたらと思うので、まだまだ英語の勉強をしないといけないと改めて実感しました。

8/6に行われた文化交流デイでは、私は主に折り紙の鶴の折り方を外国のスカウト達に教えました。どのスカウトも折るのは難しそうで、なかなか上手に作れなかったスカウトもいましたが、それでも完成した時は嬉しそうにして、鶴を持って帰って行く姿を見て、私も嬉しかったし、教える事ができて良かったです。

今度は教えるだけではなく、交流をするために、ペルーと韓国のブースを見てまわりました。ペルー料理はとても辛くて私の口には合いませんでしたが、スカウト達との交流は楽しく、少しだけペルーの文化を知れた気がしました。初めて食べるペルー料理は「世界には私の知らない料理がまだまだたくさんあるだろうな」と世界の大きさを感じました。韓国のブースではトッポギをいただきました。自分たちが夜ご飯で作ったトッポギよりも不思議なくらい彼らを作ってくれたトッポギの方が美味しくて、さすが本場だなと思いました。

文化交流デイは「世界の文化」について考えるきっかけになりました。勢いでもっと色んな国のブースに行ってみれば良かったなとは思いました。

私にとってこの夏は「世界を知る」きっかけとなり、これからもっと世界中をまわってみたいと思いました。こんな経験はスカウトじゃないとできないので、ボーイスカウトで良かったと思いましたし、この経験は私の一生の宝物です。スカウトとしてジャンボリーに参加することはもう出来ないけれど、この夏の経験を生かせるように色々なことにチャレンジしたいです。また、今のボーイスカウトや、カブスカウトにこの経験を伝えて、ぜひ世界ジャンボリーに参加して欲しいです。

最後に、こんな楽しい夏を経験できたのは、30 隊の仲間とリーダー達がいてくれたおかげだし、参加させてくれた両親にも感謝したいです。みんなに感謝です。ありがとうございました。

中村健人

「25WSJ 報告書」

ビーバーのころから憧れていたジャンボリー。16 NS J、23 WS J、17 NS J これらのジャンボリーの見学をしてやっと参加できると期待していた18 NS J。しかし新型コロナウイルスの影響で参加できず、やっとの思いで参加できた第25回世界スカウトジャンボリーでした。初めての海外、初めての長期キャンプ、初めてのジャンボリー…初めてなことだらけで不安があったけど、ワクワクした前向きな気持ちで韓国へと旅立ちました。

会場に着くとWi-Fiがつかない、トイレが汚い・壊れている、日影がないなどマイナスな面が目立ちました。しかし、僕はこんな状況でもジャンボリーを楽しもうとたくさんのスカウトと交流しました。特に印象に残っているのはスペインのスカウトとの交流です。最終的に彼とは僕の日本のデイバックと彼のアメリカのデイバック・派遣団ワッペン、日本のチーフを交換しました。しかし、最初彼が提案したのは日本のチーフではなくアメリカの大会ワッペンでした。もう一本日本のチーフが欲しかった僕は英語で交渉し、なんとか交換してもらいました。また、そのとき手元に日本のデイバックをもっていなかったもので、彼が僕のサイトに取りに来るといったのでいつ取りに来るのか、サイトはどこなのかなど約1時間話しました。ずっと英語で疲れましたが、とても楽しい時間でした。

今大会のテーマは“Draw Your Dream”僕の夢はたくさんのスカウトと交流することでした。この目標を達成するために話しかけてきた人と会話するのはもちろん、すれ違った人とハイタッチや“Hi”などのあいさつをしたり、自分から話しかけに行ったりしてたくさん交流しました。そこで、僕は文化や国籍、容姿が違ってコミュニケーションをとることができ、友情が生まれることに気づきました。英語の得意不得意関係なくお互いが交流しよう！つながろう！という気持ちがあればつながれることを実感しました。

いくつかの国が帰国したり、大会が中止になって避難したりいろいろなことがあったジャンボリーでした。しかし、この短い期間は僕にとって貴重な財産となり、一生の思い出になりました。とにかくとても楽しい大会でした。本当にありがとうございました！

山下詢平

「25WSJ の感想」

今回の世界スカウトジャンボリーでの自分の目標は、色々な国の人と国際交流することでした。初めは自分から積極的に行くことは、恥ずかしくてあまりできませんでした。しかし、外国人の人と交換品を交

換する際に英語を使ってコミュニケーションしていくうちに自分に自信がつき、最終的に流暢に話せるには程遠いけれど、ジェスチャーや単語一つ一つをつなぎ合わせて、会話できるほどになることができました。難しい交渉の末に交換できたときには達成感を感じることができました。

大会では様々なアクティビティがあり、汗をかき、班の人との交流を深めることができました。

文化交流デイのときには、様々な国の人が参加しに来てくれ、日本の文化を説明し、たくさんの人に日本の文化を体験してもらうことができました。また、他の国の文化を体験しに行ったときには、その国独自の食文化や衣服の常識について学ぶことができました。

大会中に私の不注意で、自身の派遣隊全員に迷惑をかけたとき、たくさんの人が動いてくれました。そのことに感謝し、また自分が情けなくなりました。今回のジャンボリーで沢山の人のお陰で今の活動ができていたのだと改めて感じさせられました。

私は 26WSJ の IST として世界スカウトジャンボリーに参加したいと思っています。ですが、このままの自分では、参加するスカウトをサポートするどころか他の人達に迷惑をかけてしまうかもしれないと思う自分がいます。そのようなことを起こさずにするために、私は次の WSJ までに 2 つのことを身につけたいと思います。

1 つ目は英語力です。英語の基本的な文法、コミュニケーションの仕方などを身につけることで外国の IST の人との円滑な話し合いができるようになるからです。

2 つ目は危機管理能力です。ここは日本ではないことを重々承知し、日本の常識が外国では通用しないのだと思うことで、人に迷惑をかけないようにすることができるからです。

この 2 つを身につけ、また 25WSJ で学んだことを活かし 26WSJ に挑みたいと思います。

浅中悠大

「25WSJ 感想」

僕は 25WSJ に参加し、会場である韓国のセマング

ムで開催された約 2 週間の長期キャンプで様々な、そしてほかではなかなか得ることができないような貴重な体験をしました。

僕はこの経験を、ボーイスカウト活動だけにとどまらず、これからの生活や将来にまで役立てていこうと思っています。

閑谷学校で、初めて 30 隊 E 分団全員と直接会いました。鹿班の人たちといろいろな会話を交わしました。韓国でのキャンプに向けて、そして、ジャンボリー大集会に向けて相談や打ち合わせを重ねました。いろいろありましたが、楽しい 2 泊 3 日はあっという間に過ぎ去り、家に帰った後でいよいよジャンボリーが近づいてきたんだということを感じました。

1 日目、7/29 は、午前中はバスに乗ってからわくわくしていました。午後に、大阪に到着して、やっと『「25WSJ」に参加した』という実感がわきました。

大阪でやっと E 分団がそろい、岡山、広島、島根、そして鳥取県中・東部のひとたちと久々に顔を合わせました。

2 日目、7/30 は、夜に閑谷学校の時のように打ち合わせを行いました。

MOMOTARO 班の福住陽路班長が抜けたのは非常に残念な出来事でした。というのも彼は、今回班こそ違うものの、ずっと地元の同じ隊で活動してきた為、いざというときに頼りになることを知っているし、尊敬もしていたからです。

3 日目、7/31 は、様々な初体験のあった日でした。初の海外。初の韓国。初の外貨。

いよいよ韓国です。たくさんの検査を終え、出国手続きもしました。手荷物検査で引っかかったときは少し焦りました。…結局何も没収されなかったのですが。

YMCA に着き、ビデオでルールを説明されました。しかしハングルで何となくでしか理解できなかったし、制作者の中にスター・ウォーズのファンがいたようで、ものすごい著作権の侵害にびっくりしました。ソウルの散歩がおもしろかったです。お土産も買うことができました。

4 日目、8/1 は、初めて会場に行きました。確かに、聞いていたとおりの、虫が多くて、舗装のされていな

い、雨が降ると泥沼になる干拓地でした。

5 日目、8/2 に開会式が開催されました。世界中の人々が集まり、自国が紹介されると、立ち上がり、歓声をあげました。本当に様々な国がきていて、少し驚きました。

9 日目、8/6 は、日本国民にとって、特別な、「原爆の日」です。その日にジャンボリー大集会＝国際交流をするとは、何か縁があったのかもしれないと思いました。

午前中に各国を回りました。インドですてきな文様を手のひらに書いてもらったり、たくさんの食べものを食べました。インドネシアでは、ミニゲームで競争したりしました。

午後は自隊に戻って接客を任されました。「Come on here!」「There are Japanese!」「Welcome!」と大声で客を引き込み、「Would you like some green tea?」「Right is shooting」「Ring toss in the center」と簡単に案内もしました。そして、「抹茶がすいてる」といわれれば、次にきた客を抹茶に誘導したりしました。忙しくて大変だったけど、とてもいい 1 日でした。

10 日目、8/7 に大会本部より避難指示が出され、とてもショックでした。急いで準備をし、打ち合わせをしてテントにはいりましたが、なかなか寝付けませんでした。

11 日目、8/8 の朝、撤営をし、小移動を繰り返しました。その途中で、ほかの国々の人たちと共に、ビーチバレーをしました。

午後に救仁寺に到着。古そうな建築様式で威厳あふれる外観となかなか新しい(もしかしたら最新)の設備がある屋内とのギャップに驚きました。

13 日目 8/10 にプログラムがありました。スカイウォークをしたり、水族館にいった多種多様な魚たちを眺めたり、写真を撮ったりしました。水族館にいったのは久しぶりだったからおもしろかったです。

14 日目の 8/11 には救仁寺を出発し、閉会式会場であるワールドカップの会場へと移動。

閉会式&K-pop コンサートが開かれましたが、開会式ほど楽しくなかったです。開会式もそうでしたが、英語が初心者なので、話の内容がわからない。それに加えて K-pop コンサートでは頭が痛くなってしま

い、ほとんどの時間、壁を 1 枚挟んだ向こう側にいました。

長い長いコンサートが終わり、バスに揺られ、再び仁川空港にやってきました。

空港では、ちょっとした喜びがありました。久々に肉を食べることができたのです。救仁寺は、お寺です。当然ですが、肉が食事に組み込まれていません！だから、滞在中はなかなか口にすることができませんでした。ですから、KFC で肉を口にできたことはうれしい出来事でした。

…としているうちに、8/12 にいつの間にか突入し、

15 日目を迎えました。

結局全く眠らず(・・・)朝になり(というか起床時間になり)、また動き出しました。そして、7/31 のようにいろいろな手続きをへて飛行機へ乗り込みます。その後、仮眠しなくてたまっていた疲れが押し寄せ、飛行機の中ではずっと寝ていました。

飛行機から降り、関空へ戻り、入国手続きを済ませてやっと正式に日本に帰国しました。

…そして解散し 30 隊がとうとうばらばらになり、バスで米子に帰り、たくさんの親に拍手で迎えられながら、「ただいま」といい家に帰りました。

この 25WSJ は僕を大きく成長させたと思います。思えば僕は、これが初の大会でした。県大会は年齢によりキャンプには行けませんでした。100km マラソンやハイキングはしましたが、湖山池にはいけていません。そして日本ジャンボリーも団ごと辞退し、いけていません。つまり、県大会にも、日本大会にも行けず、最初が世界大会な訳です。とてつもなく高いハードルでしたが、それにしてはよく頑張ったと自分では思っています。悔いはありません、とはいえませんが。もっとしたいこと、挑戦したいことはまだまだありました。台風を恨みます。いや、今も恨んでいます。恨み続けるかもしれません。

しかし、できた数少ないことの中にも、僕を成長させたことが、数多くありました。

恨んでも 25WSJ は戻ってはきません。今得たことで、これからをがんばっていこうと思います。

誰かに言われたとおり、25WSJ は損にはなりませんでした。むしろ、大きく得になりました。次の

26WSJ はポーランドです。僕は、そこに IST として
いこうと思ってます。そのために、これからのスカウ
ト活動、そして英語をがんばっていきます。

今田晴帆

「わたしが 25WSJ で得たもの」

私がこの 25WSJ に行こうと決心したのは、中学二年の冬に当時同じ学校に通っていた松田さんから 2023 年に韓国で行われるということを聞いた時でした。また、同じボーイスカウト活動をしていた兄が 23WSJ に参加していたこともあり、世界ジャンボリーについての話をたくさん聞いていました。世界中から何万を超える同世代の人たちが集まり、しかも二週間近く一緒に生活できる、世界中の人たちと話せて友達になれる。そんな機会は今後の人生でも二度とないと言っていいくらいの貴重な機会だと思い、一級獲得を目標にし、ボーイスカウト活動に取り組みました。

隊長やボースカウト活動を共にする仲間の助けもあり、無事に一級を獲得して三月の事前訓練に挑みました。そこで知らされたのが、自分が班長であるということです。今まで地元の隊では隊員も少なく、班もまともに組めない状況で活動してきた私にとって、知り合いが一人もいない人たちのリーダーを務めるというのは正直すごく不安でした。そのため、ボーイスカウトとしてのスキルもあまりない私がまず心掛けたのが、みんなが話しやすい明るい雰囲気を作ることです。自分から積極的に隊員みんなに声をかけ、常に笑顔でいることを心掛けました。最初はみんなぎこちなかったのですが、事前訓練が終わるころにはみんな仲良くなって帰っているようでそれがすごくうれしかったのを覚えています。その後さまざまな準備をし、期待に胸を膨らませ韓国に向かいましたが、私たちを待っていたのは想像と全く違う現状でした。初日から食料の配給は来ず、トイレなどの衛生環境は最悪、一日中直射日光が降り注ぐなど、肉体的にも精神的にもきついものでした。しかし、そのつらさよりも勝ったのが、この世界ジャンボリーの大きさでした。世界のあらゆるところから来た私と同じような人たちが、いま私と同じ状況で一緒に生活しているんだ、つらいのは、私

だけじゃない。そう思うと厳しい環境でも耐えることができました。私は韓国語を話すことができたので、韓国のスカウトやスタッフの方、現地の方々とたくさん話をすることができました。また、この環境だからこそ身についた力もありました。それは、物事をプラスに考える力です。連日続く猛暑の影響で、予定していたアクティビティができないことが多くありました。しかしそのおかげで、会場に向かうまでや、空いた時間で人と関わる機会が増え、本来よりも多くの人たちと交流することができたと思います。台風の影響でお寺に避難し、体調が悪くなったこともありましたが、そこで助けてもらった通訳の大学生とも仲良くなれました。よくなかったことを数えれば決して少なくはなかった今回のジャンボリーですが、それと同じくらい本来だったらできなかったことも多く、貴重な経験と思い出になりました。

今回の世界ジャンボリーで、本当にたくさんの友達が世界中にできました。ジャンボリーに行くまでは考えてもいなかった、次回のジャンボリーで会おうという話もあり、次回のジャンボリーも参加したいなと今は思っています。環境があまり良くなかった今回のジャンボリーでこのように思えるのは、予想外のことがたくさんあった中、私たちを先導してくださった隊長や皆さんのおかげです。本当にありがとうございました。今回経験したものが、今後のボーイスカウト活動に生かせるよう、今後も努力していきたいです。

井本真一

「ジャンボリーの感想」

今回のジャンボリーの感想を書こうと思います。

今回のジャンボリーは韓国でありました。私は、今回のために服や道具を新調し、韓国に行く日をとっても楽しみにしていました。今回が初めての韓国、初めての海外だったので楽しみも大きかったと同時に、緊張や海外に行くことへの不安もありました。

そしてやってきた大阪での事前訓練の日、大阪のユースホステルで二泊三日の訓練がありました。そこで、班の人と会って話すことがあったのですが、

自分たちの班の人と会うのは、3月の訓練以来で5ヶ月ぶりなので、とても緊張していました。しかし、あって話してみるとみんなはとてもフレンドリーに接してくれたので、肩の力を抜くことができたので、とても助かりました。

そして、飛行機に乗るときが近づいてきました。関西国際空港にやってきたとき、私はしばらく動悸がおさまりませんでした。初めての飛行機ということと初めての海外ということがとても緊張していました。大阪のホステルにいるときには、楽しみのほうが大きかったのですが、乗る直前になると、恐怖のほうが大きくなりました。飛行機が飛んだ瞬間の座席に押し付けられる感覚とからだの中が浮いたような浮遊感は少し気持ち悪く、慣れないと思いました。機内食は美味しかったです。

韓国についたとき空港の出口あたりには、たくさんの外国人がいました。あんなにたくさんの人種の人がいるのは日本では、見たこともありませんでした。外国人の人はとても明るく感じ、どんどん話しかけてきました。そこで交換品の交換もしてしまいました。

韓国のホテルについたとき私は驚きました。部屋の鍵はカードキーなどではなく、暗証番号でした。料理も美味しかったのでもうここに泊まればいいんじゃないかとも思いました。そして夜は韓国の街を散歩しに行きました。サーティワンがあったのですが違う名前でした。そこでお土産を買ったのですが、字が全部ハングルでわかりませんでした。

キャンプサイトについてからテントをたてて過ごしたのですがとても蒸し暑かったです。その熱のせいでプログラムがどんどん中止になっていきました。その中で海に行くプログラムに行くことができました。暑い中で海に入ることができて嬉しかったです。しかしその海も浅いところは温度が上がっていてお風呂みたいになっており、貝が茹で上がって死んでいました。それでも深いところは冷たかったので満喫することができました。その他にも、ものづくり体験では鍋敷きをつくることができました。交換もたくさんできて交流ができて楽しかったです。

その後台風のせいでキャンプサイトから韓国の天台宗の総本山である寺に行きました。そこであった舞やパントマイムショーを見ていておもしろかったです。

そのあと、閉会式になり、ライブがありました。私はあまり詳しくないですがみんなが知っている有名なグループも出るらしくとてもにぎやかなライブでした。

そして、帰国の日になりました。空港で一晩過ごしたのですが晩ごはんのチキンが辛くて韓国はほとんどのものが辛いのかと思いました。朝になって飛行機に乗る時間になって二回目の搭乗になりました。行きよりは緊張しませんでしたでしたがそれでも少なからず緊張していました。

今回、海外で知らない人と友達になれたり英語で人とたくさん話すことができたりする貴重な体験をすることができました。海外の人と友だちになれたのだから日本で友達を増やすなんてわけないと思うのでこれからの生活で活かしたいと思いました。

山根 新

「第25回世界スカウトジャンボリー感想」

新たな出会いや特別な体験に対する大きな期待を胸に挑んだ第25回世界スカウトジャンボリー。事前訓練と決起集会、ソウルでの一泊を終えて、全羅北道セマングムに位置する会場に降り立った時、初めて出た言葉は「暑い」。事前の情報として日本と同様の気温でかつ湿度が高いという話を知ってはいたが、やはり日本とのギャップに驚いた。

そんな気候に体が慣れ始めると、次に目に入っただのはやはり数多くの外国スカウト。周りを見渡せばどこをみても髪や目、肌の色、国籍の異なる人々が一堂に介していた。また、海外のスカウトたちのレベルの高いパイオニアリングの作品の数々。岡山、日本のスカウトのものとは一線を画するような、海外のスカウト活動、世界スカウトジャンボリーの規模の大きさを初日から体感した。

翌日、オープニングセレモニー。開会前、会場前から歌や踊りで盛り上がる各国のスカウトたち。そして、第25回世界スカウトジャンボリーの開会

宣言とともにオープニングセレモニーが始まった。参加国の紹介から始まり様々な人たちの言葉、韓国文化の紹介。それらに沸き立つ会場。その体験のまん中で、事前に計画していた目標とはまた別の目標が自分の中で生まれた。それは、この非日常の2週間の中で未知の存在に臆せず、積極的に「挑戦」する事だ。

ついに始まった世界スカウトジャンボリー。一番最初のアクティビティ活動はオフサイドプログラムだった。午前は海水浴、午後はロープのアスレチックやジップラインなどを楽しんだ。結局、本格的なアクティビティ活動はこれのみとなってしまったが、十分に世界ジャンボリーならではのアクティビティ活動を楽しむことができた。

さて当初から大きな目標としていた海外のスカウトのとの交流だが結果としては、約25カ国、30人以上のスカウトと交流。20人前後のスカウトとInstagramのアカウントを交換し、今でもInstagramを通じてボーイスカウトの活動を共有したり、メッセージのやりとりを続けている。計画していた、ノートに夢を描いてもらう、といった活動はできなかったが、SNSを活用した交流を行う事ができたので、当初の大きな目標は達成できたと言える結果となって良かったと思う。また、なによりも交流を通して得られた見聞も大きかったと思う。

1番想像とのギャップが大きかったのは、大半の韓国人が日本の事を好きという事だった。国際的な問題が未だ残る日韓間であるが、若者の間ではそれらを感じさせない文化の交流があるのだと思った。実際、交流した人達の中で1番多く、1番話しかけられたのが韓国のスカウトたちだった。しかしいまだに個人活動に対する課題は残っていると思うので、これからのボーイスカウト活動、また4年後のポーランドで行われる第26回大会で改善していきたい。

数多くの経験や出会いをする事ができた第25回世界スカウトジャンボリー。その中でも衛生環境やアクティビティ、台風の影響など、悔しい思いも多くあった今大会。それだからこそ次回大会であるポーランドでの第26回世界スカウトジャンボリー

でリベンジしたいという気持ちが強く芽生えた。今回はISTまたは指導者としての参加となるが、まだまだ自分もスカウトとしての課題が多い。だからこそ菊章、ひいては富士章を目指してこれからもボーイスカウト活動を頑張っていきたい。

三原 昊大

「忘れることのないジャンボリー」

今回の世界スカウトジャンボリーは史上最悪のジャンボリーとの呼び声も高く、確かに不便な点も多く過酷なジャンボリーであったと思います。しかし、そのような中でも大変なことばかりではありませんでした。

僕は外国人との交流が最も楽しかったです。もちろん、言語の壁は多少なりともありましたが、英語であれば話している内容はだいたいわかるようになりましたし、言語を超えたコミュニケーションもあり、心が通じあったように感じ、嬉しく思いました。また、文化交流デーでは様々な国の食べたことのない食べ物をたくさん食べました。僕はインドのお菓子がとても口に合いました。そして、チーフなどの物々交換もとても楽しかったです。人通りの多い場所でバザーを開き、たくさんの人と喋った時はジャンボリーの楽しさを身に染みて感じました。

そして、韓国の食べ物は総じて美味しかったです。やはり、辛いものばかりでしたが、それが刺激となりとてもおいしかったです。個人的にはみんなで作ったラーメンが辛くて美味しかったです。韓国の食べ物が日本で流行することにも頷けると思いました。

また、閉会式のK-POPコンサートも非常に楽しかったです。僕はK-POPの方面についてあまり明るくないのですが、あのような大型のコンサートに行ったことがないためとても新鮮で楽しかったです。声を出しすぎたため、翌日はあまり声が出ませんでした。

今回のジャンボリーで痛感したことは自分の英語力の無さです。もっと単語を覚え、日常生活に差し支えないほどの英語力を身につけようと決心しました。

そして、海外の人との感覚の違いについても学びました。例えば、海外の人達ははっきりしたことを好むため、多分と言うと少し不審がるような目を向けてきました。そのような違いも面白いと感じました。

今回のジャンボリーは様々な障害がありましたが、一生忘れることの出来ない経験となったことは間違いありません。今回の貴重な経験を勉強などの原動力として生活していこうと思います。

武田 樹

「2023 世界スカウトジャンボリー感想」

僕は、海外の人たちと交流がしたいと思って、第25回世界スカウトジャンボリーに参加した。交流では、海外の文化を知ること、また日本の文化や日本語を発信することをした。その交流で、特に印象に残ったものを、書こうと思う。

まずは、イタリアの隊の人だ。カードゲームや交流をするために、僕たちのサイトにやってきてくれたのだ。僕はカードゲームには参加しなかったが、交流を楽しんだ。なんと日本語学校に行っている人が来ていて、日本語がとても上手く話が弾んだ。その交流では折り紙を折ったりした。またイタリアの高校やイタリアの隊の人たちが住んでいる地区のこと、逆に鳥取のことについても話した。その中で一番驚いたことは、日本とイタリアの違いだ。写真を見せてもらった時、石張りの港で日本にはない風景できれいだと思った。また日本の四季の写真を見せたとき、イタリアにはなく驚きで、また珍しいと言われていた。この交流で、イタリアと日本の違いを感じた。また日本で季節が来たら見るができるようなものも、普段感じないだけで実は貴重なのだと分かった。

次に、交換をしたときについて書こうと思う。インドネシアの人と、派遣団ネッカチーフ同士を交換した。インドネシアのネッカチーフには仏教遺跡が書かれており、それについて尋ねたらいくつかの写真を見せてくれた。日本では木でできた仏像が多く並んでいる印象だ。ところがインドネシアではストゥーパと呼ばれる石でできた仏塔が、いくつも並ん

でいると言われていた。とても奇麗だった。同じ宗教でも違う国になったら全く違う遺跡ができると分かったし驚いた。また、スウェーデン隊の人とも交換をした。名探偵コナンのピンバッジとワッペンを交換したのだが、名探偵コナンの説明をしたら知っていると言われた。日本のアニメは、ヨーロッパでも有名なのかと、びっくりした。

今回の第25回世界スカウトジャンボリーで、僕は海外のことについて知ることができた。また、どんなに言葉や文化や場所が違っていても仲良くなることができるというのを知った。この経験をもとに、これからの実生活で海外の人と会ったら、積極的に話しかけて仲良くなりたいと思う。

寄川大樹

「25 WSJ に参加して」

僕は、7月29日から8月12日まで「25回ワールドスカウトジャンボリー」に参加しました。今回のジャンボリーは、世界158カ国、45,000人が参加し、日本からは1500人のスカウトが参加しました。

7月29日から7月31日までは事前訓練があり、みんなと荷物の確認やジャンボリーの日程を確認したり、現地での計画を立てたりしました。僕のダッフルバックは空輸の規定を超えていたので、チャーシューのように紐をグルグル巻きにし、無事に飛行機に乗せることができました。

8月1日の朝、韓国に向けて関西空港から出発しました。国際線の飛行機は初めてで、機内食が出てきてびっくりしました。牛丼にカレーをかけるような食事で、牛丼だけでは美味しくなかったのですが、カレーをかけると少し辛くてとても美味しかったです。仁川空港に到着したときは、初めての海外でとても興奮しました。当たり前ですが、辺りはハングル文字と英語で書いてあり、韓国にいることを実感しました。これから始まるジャンボリーが楽しみです。その日はホテルに泊まり、夜みんなと観光しスーパーにも行きました。海外での夜の街にとってもワクワクしました。財布を持

たずに出てしまい、買い物をできなかったことが残念でした。

8月2日朝早く、バスでジャンボリー会場に向かいました。ジャンボリー会場に着くと、現地にいたスタッフの人は英語で話していて、正直何を言っていたかわかりませんでした。ジェスチャーも交えて説明してくれたので、なんとか理解することができました。自分たちの隊が使う敷地に行き、雨で浸水しないように、板を置きその上にテントを建てました。周りにはいろいろな国の人がいて、グータッチやハイタッチをしながら開会式の会場に向かいました。

開会式では、始めに韓国の踊りが披露され、日本に「似ているところもあるな」と思いました。それから、今回のジャンボリーに参加している国が発表されました。「ジャパン」と呼ばれたときに「イエーイ！」と大きな声で叫びました。他の国が呼ばれていた時には、大きな拍手を送りました。最後にK-POPの歌とダンスで開会式は終わりました。その日の夜は興奮していたので、なかなか眠ることができませんでした。

二日目からは、ジャンボリー会場での環境の悪さを感じました。会場は木がなく、草も見つけない赤色の草が生えているだけ。トイレは詰まっていたり、反対に水があふれたりしました。シャワーも水しか出なかったり、水量がとても少なかったりしました。とても気温も高く、日影が全くないので熱中症になる人が多く、大会期間中、救急車の音が鳴り止むことはありませんでした。食事は辛いものが多く、配給された水もすぐになくなりました。僕は辛いものが苦手なので、食べられる量はとても少なかったです。何度も水をくみに、遠くの水くみ場に行きました。水筒を持って行って、本当に良かったです。ジャンボリーで開催されるはずだったプロジェクトは、気温が高すぎたために、中止になることが多かったです。その中で、僕が参加することができたプロジェクトは三つ。「海岸プロジェクト」「アスレチック」「鍋敷き作り」でした。一番楽しかったのは「アスレチック」。木と木の間に張ってあるロープや壁を使って綱渡りをしました。ロープから

落ちないように必死でしたが、それがとても楽しかったです。

プロジェクトが中止になり、暇な時間が増えたので、隊の人たちと声を掛け合って、他の国のキャンプサイトに行ったりバザーの所に行ったりして、物々交換をたくさんしました。ワッペンが56枚、服は10着、チーフは10枚、その他メダルやチーフリング、帽子などなど・リュックサックも香港の人と交換しました。もちろん名刺交換もしました。いろいろな国の人とコミュニケーションを取って感じたことは、英語が話せなくてもジェスチャーで思いは伝わること。日本の物は外国の人にとってとても魅力があると感じました。僕は日本人に生まれて、とても誇らしく思いました。ジェスチャーで思いは伝わることはわかりましたが、自分の言葉で思いを伝えたり、相手の言っていることを理解できたりすることができたら、もっと良かったと思います。

台風が近づき、日本のスカウトはお寺にお世話になりました。お寺では、日本全国のスカウトとジャンボリーの思い出を話したり、閉会式の準備をしました。閉会式ではK-POPライブがあり、とても盛り上がりました。

大変なことも多かったジャンボリーでしたが、僕が感じたことは、世界中にスカウトの仲間がいること。世界の中で日本がとも評価されていること。がわかりました。4年後ポーランドでの世界ジャンボリーにも何かしらの形で参加したいと思いました。

吉村悠花

「第25回世界スカウトジャンボリー」

私は第25回世界スカウトジャンボリーに参加した。今回の大会テーマは「Draw your Dream!」私が描く夢は外国のスカウトと友達になること。不安や緊張を感じながらも決意を固めた。

私は大会を通して大きく2つのことを学んだ。1つ目は勇気を出すことだ。私の夢を叶えるために周りのキャンプサイトに行ってワッペンを交換することに決めたが、なかなか勇気が出せず外国のスカウトに声をかけられなかった。結局その日は誰と

も会話や交換をせず帰ってきてしまい、現地に来たら自然に友達ができるというのは甘い期待だったとわかった。自分から話しかけなければ会話はできないとわかり、勇気を出して挑戦してみることにした。最初はハードルを低くするためにたくさんの人がいるところに行き自分から話しかけてみると思ったより簡単に楽しく会話ができた。成功体験ができるともっと勇気が持てるようになり、たくさんの人に話しかけていくうちに恥ずかしいや怖いといったネガティブな感情はなくなっていった。私は夢を叶えることができた。大会で友達ができただ。韓国のスカウトで名前はサンフンという。サンフンと話をするのは楽しく韓国の文化もたくさん教えてくれる。この先もずっと友達でいたいと思える友達ができ大会に参加してよかったと心から思った。

2つ目はどんな環境や状況においても心の余裕を持ち楽しさを見出すことだ。会場では虫が多かったり衛生的でなかったりなどと辛いことが多くあった。これらに苛立ち、友達に不平不満をこぼしていた。だが、辛いのは私だけでなくみんな一緒だから不平不満をこぼして何かが変わるわけでもなく空気が悪くなるだけだった。それに気づいたのは遅く会場で生活し始めてから5日が経っていた。自分のことだけを考えた言動をしていたことに申し訳なさを感じ、自分の感情をコントロールできるように努力しようと思った。その日から自分本位ではなく友達のことを考えて行動した。だが、自分の感情をコントロールするのは難しく全てを改善することはできなかった。普段の生活でも重要なことだから少しずつ感情をコントロールできるように頑張りたい。

私はこの大会で友達から2つの大きなことを学んだ。また、友達は海外のスカウトとのことだけだと勝手に決めてしまっていたが同じ隊のスカウトとも友達になれた。これから日本での生活が再会するが交友関係の幅を広げて自他共に成長できるようなことを学び合いたい。

山下航太郎

「25WSJ」を終えて」

僕が今回の25WSJに参加してみて感じたこと、成長したな、と思ったことは2つある。

1つ目はスカウト活動を通して他の国の人と交流することへの楽しさだ。今回のWSJでは158カ国の国と地域から約4万3千人ものスカウトが参加した。158カ国、1つ1つにその国の文化、宗教、風習、があり様々な形でそれらを体感できたと思う。例えばイタリアのトランプを使ったカードゲームなどである。僕たち30隊のサイトの隣にはイタリアの隊が生活していて夜になると毎日のようにカードゲームに誘ってくれるのだ。そこで僕たちは日本にはないイタリアのカードゲームを教えてもらった。お返しに日本のカードゲームを教え、イタリアの人たちと一緒に盛り上がる事が出来た。他国の文化に触れることはこんなに楽しいことなのかと少し驚いた。こうした文化を通して外国人たちと交流することで自分のコミュニケーション能力が上がったのではないのかと思う。

2つ目は今回のWSJ派遣で上がってきた僕自身の欠点である。それは言われても行動できないことである。個人的な事柄でやれる人が僕1人しかいないのならすぐ動けるが、たくさんの人がいる中で誰でもいいからこれをやると言われても率先して動きだせないのだ。もちろん言われる前に自ら気付いて行動できるのが一番いいけどせめて言われる前に気付けるように普段の隊集会で意識したいと思った。

また班の中で自分の意見をはっきり持っていて結局他人の意見に何も言えずにその通りにしてしまい、それが失敗だった時にあそこで自分が言っていればと思うことがある。なぜもっと自分の意見を言わないのかとよく思う。だからこれからは、隊集会でも自分の意見をしっかり言うことを意識していきたいと思った。

この25WSJは運営の方にも様々な問題があったり、台風が直撃し、キャンプを中断して非難したりと様々なことがあった。しかしそれらを含めたジャンボリーは一生の思い出になるほど僕の記憶に鮮明に残った。干拓地でのキャンプは経験したこともな

かったので勉強になったし、人に対する接し方もうまくなったと思う。開催国の韓国の人たちはとてもやさしく僕たちのことを全力でサポートしてくれた。このジャンボリーで得たものを生かし、これからのスカウト活動に生かしたいと思う。

最後に 30 隊を支えてくださった隊長や副長、大会のサポートをしてくださった IST の方々、準備や日本でのサポートをしてくれた両親。そして白兎班のみんなに心からの感謝をして無事終われたことを嬉しく思う。

妹尾幸星

「25WSJ 報告」

僕は今回の第二十五回ワールドスカウトジャンボリーに行き、ジャンボリーに行く前に立てた「外国のスカウトとたくさん接する」という目標を達成することができました。

子供のうちに、一箇所で様々な国の人と触れ合う機会というのは本当にジャンボリーだけだと思います。だからこのチャンスを活かし様々な国の人と関わりたいと思いこの目標を立てました。

実際に行ってみると空港で外国のスカウトと出会い少し話したりと思ったよりも気軽に話せることができました。

また、大会会場に行ってみると「Are you Japanese?」と聞かれたり、「コンニチハー」と話しかけてくれたり、たまに日本語を話す人もいたりして多くの人と交流することができました。

水を汲みに行っただけでも色んな国の人がいて、「Where are you from?」という人に聞くのが面白かったです。

文化交流デイでも、自分の隊のテントでもてなしていたら多くの国の人が来てくれてたくさんお話をしました。

僕と同じ年なのに僕より一回り、二回り大きい女性もたくさんいて面白かったです。

僕はその時、チーフにポケモンのチーフを数珠繋ぎにしていたのですが多くの外国人がポケモンを知っていてびっくりしました。ポケモンを知っている人とはなんのポケモンが好きかなどを話したりしま

した。

このように多くの人と交流を深めることができました。

また、僕は精神面で大きく成長することができました。

普段の自分の生活圏とは異なる価値観の方々に触れる事が出来、世の中には様々な方が居られるということを学びました。

また僕は元々、不満を受け容れられない性格だったのですが、ジャンボリーに行き、出会った副長や僕の班の班長が自分とは異なる考え方でしたので、歩み寄る心が身につきました。

このようにして僕はジャンボリーに行き、無事目標を達成し、成長することができました。

これからもスカウト活動を熱意を持って続けていきたいです。

松田香穂

「世界ジャンボリーを通して学んだこと」

私は将来国際関係の仕事に就きたいと思っており、今回の世界ジャンボリーは世界の様々な国の人達と一度に交流することの出来る機会だと考え参加しました。一言で感想を述べると、とても楽しい2週間でした。隣のテントは海外のスカウト、通り過ぎる人は全て海外の人で日本人とすれ違う方が珍しい、しかも海外の人とくくってもみんな違う国の人、年齢も人種も関係なく、バッチやネッカチーフ、T シャツを交換して、写真を撮って、インスタグラムを交換する。思っていた以上に楽しかったです。今まで世界ジャンボリーに参加した方々に言われる「楽しい」の意味がわかりました。

今回の大会は、インフラが整っていなかったり、暑かったり、コロナなどの感染症もあったりと色々不便なところもありましたが、いつも過ごしている環境がどんなに良いところなのか勉強になりました。また、辛いところがあったから楽しいことがより幸せな記憶として残ると思います。

そして、このジャンボリーを通して将来、世界の様々な人と関わりたいという気持ちがより1層高まりました。今まで国際系の仕事に就きたいとは決まっていたのですが、具体的に何をしたいのか決まっていませんでした。

今回の大会を通じて感じたのは、スカウトには人を差別する気持ち、人と争う気持ちをもつ人はいませんでした。みんな他の国の人と仲良くなりたい、このジャンボリーを楽しみたいという同じ気持ちを持って8日間生活していました。なので、色んな国の人と話せて仲良くなり楽しめたと思います。私は将来こういった若者が国関係なく世界の人と関わる場を作って行きたいと思いました。スカウトだけでなく様々な若者や世界の人と関わるのがより身近に感じれるようにしたいです。みんなが差別の心、争う心を持っていないと分かれば、もっと世界がより良くなると思います。世界の悪い現状を良くする

ことも大事ですが、悪くしないように土台を作っていくことも大切だと思いました。

北原 怜

「25WSJに参加して」

今回の25WSJに参加して乗馬、海での体験、アスレチックを体験したりすることができました。途中では、台風の影響で中止になって移動をすることもあったけど、移動先での観光も楽しむことができました。

インターネットでの、ニュースにもあるようなこともあったりしましたが、海外のスカウトと交流したりすることができました。

大会会場では、日影がすくなく熱中症で救急搬送される人も多かったらしくて、自分でも対策をしたりすることを頑張りました。

大会会場での、シャワーやトイレも衛生管理が行き届いてないことも、初めのほうはあったけど、後半になるにつれてトイレとシャワーの衛生環境が整っていったことが、嬉しかったです。

会場では、インターネット接続がうまくいなくて不便なことも多くありました。

自分の班では、訓練キャンプの途中で班長が抜けたりして、自分がいきなり次長をすることもあって、大変なことも多くあって班長の支えをすることも多くあって、班員をまとめることもとても大変だったけど、一生懸命やることができました。

訓練キャンプでの、失敗を生かしたりすることを自分の中の目標にして、暮らしていきました。

会場では、環境がわるくて苦しいこともあったけど、開会式でのライブや空軍ショーもあったりして、楽しむこともできました。

文化プログラムでは、海外のスカウトとの交流をすることもできたり、自分のサイトにスカウトを呼んだりして充実したプログラムに参加したりすることができました。

台風の影響で、遠くのお寺に避難して観光をすることとかができたりしました。観光では、韓国料理を食べたり展望台に登ったり、水族館に行ったりして観光を楽しみまして観光をたのしめました。

お寺では、日本と違うお米やみそ汁が出てきて初めの方は戸惑ったり、精進料理が出てきて肉や魚が食べなくなりました。

最後の空港では、みんなで雑魚寝をして自分はスペースがなくて寝ることができなかつたりしました。

それでも、このジャンボリーで忍耐力を鍛えたりすることができました。この経験を生かして、自分の成長につなげていこうとおもいます。

浅中淳志

「25WSJ」の感想

八月一日、私たち 30 隊は、セマングムにある大会会場に入りました。

第一印象としては、寂しいところでした。先に聞いていたとおり、日陰は全くといっていい程なく、各サイトに立つマーキーテントとパレットの山がどこまでも続いていました。日差しが強く、水くみ場で他国のスカウトが水をかぶっている姿がバスから見えました。

自分たちのサイトに着くと、適宜休憩を取りつつ設営にかかりました。地面は先日の雨がまだ抜けておらず、快晴にもかかわらず地面はぬかるみ、でこぼこしていました。会場に入ったのは午後でしたが、あっという間に時間が過ぎたように感じました。

朝夕食は配給があり、FOOD SUPPLY から受領します。一日の夕食はリゾットのような物を作りました。おいしい物が作れましたが、配給された食材がとてつもなく多く、食べることができませんでした。当たり前ですが、量が日本人向けではなく、外国にきたことを改めて感じました。

会場入りして二日目は念願の洗濯ができました。二十九日に出発してから洗濯できていなかったのがありがたかったです。また、昨日に続き洗濯日和で地面も未だ湿っていたので、いい洗濯になりました。

午後は会場内に設置されたコンビニへ行きました。中はかなりの人混みで、商品を探すのも会計するのも大変でした。ですが、氷が多く売っていたの

がとても嬉しかったです。行く前は「多少ぼったくられるんだろうな」と思っていたましたが、かなり安く購入することができました。韓国は全体的に相場が、お菓子は日本より安くジュースは高い印象でした。

開会式は、とてもうるさかったです。ドローンの空中ショーを見逃して、しかも帰りは道に迷ってしまいました。

三日目は、場外プログラムで海に行きました。とても遠浅で、水につかれるようになるまでかなり歩きました。夏の太陽に照らされ海水は、「お風呂か!？」と思うほど熱かったです。ロープで組まれたアスレチックも面白かったです。

次の日は場内プログラムの予定でしたが、暑さのため中止となり、どこにも行くことが出来ませんでした。気温は 40℃に達し、とてもたいへんな環境でした。いつも救急車が走り回り、サイレンを響かせていました。地面が乾くと砂が舞い、服も髪も洗濯物も砂まみれになりました。

四日目はついにプログラムに出かけることが出来ましたが、暑さのため開店休業状態で、まともにアクティビティが出来ませんでした。片道約八キロも歩いたのにとっても残念でした。五日目もあり替わりませんでした。又、スタッフの不足などからトイレは汚れ、どこも詰まっていました。さらに、シャワーもかなり汚い上に水圧が低く、使い物になりませんでした。水道も水がほとんど出ず排水溝が詰まり、地面には汚水がたまっていました。衛生環境は最悪の域に達していました。

文化交流デイにはみんなの努力で、うちのサイトには多くの人が訪れてくれました。やはり、多くの国から日本は人気でおそらく、シドニーで最多だったのでは？と思ったりもしています。

六日目辺りから、徐々に衛生環境が整って来ました。トイレは増設され、水圧も回復しました。さらに大量に動員されたスタッフのおかげで、あちこちがきれいになりました。韓国軍の工兵隊がやってきて、排水溝などが整備されました。

七日目にもなると、生活のルーティーンも出来てきて、生活にかなり慣れ初めました。生活環境も改

善し、良いキャンプライフが送れると期待していました。しかし昼頃、衝撃的な噂を耳にしました。イギリス、アメリカに続いて日本も撤退するというものです。実は少し違う情報ですが、そのときは不確定な情報でした。大慌てでお土産を買ったり、記念品を買ったりしました。その後、日本だけが撤退するのでは無く、全体が、台風に向けて緊急避難する。ということがわかりました。この日予定されていたK-POPコンサートは中止になり、急いで身の回りの荷物を整理しました。

最後の日が訪れました。いつものように朝ご飯を作り、その後にゆっくりと徹営を進めていきました。何もかもを来たときのように戻してきました。しかし、外国の隊の様子は少し違うようでした。全て出しっぱなしで、自分の荷物だけを持っていったかのように散らかっていました。あるサイトでは、まるで夜逃げしたかのような散らかり具合でした。地面に庖丁が突き刺さり、ガスボンベが散乱し、コンロも出しっ放しで、調理仕掛けのフライパンがのっていました。テーブルの上には食べかけの食材と飲みかけのコーラが置いてあったのが印象に残っています。

八月八日、私たち三十隊は、こうして大会会場を去りました。強い日差しと舞い立つ砂埃、ですが、また行きたいなと思っています。

尾崎健汰

「25WSJ 感想」

私が第25回世界スカウトジャンボリーに参加した際の印象は、その規模に圧倒されました。このイベントを通じて、新たな仲間や宝物のような経験を得ることができました。

まず、異なる国や文化からの参加者との交流は、まさに貴重な経験でした。言語の壁を越えて新しい仲間とコミュニケーションをとり、彼らの生活や価値観について学ぶことができました。これにより、世界中にはさまざまな考え方があり、それぞれの違いを尊重することの大切さを感じました。

私はこのジャンボリーに参加するまでは人に話しかけることが苦手でした。ですが海外の人達にはと

ても気楽に話しかけることができ、海外に住みたいとも思うほどでした。

アクティビティでは、自己成長の機会をたくさん得ることができました。

キャンプ生活でも、リーダーシップやコミュニケーションの大切さを学びながら、自分自身を挑戦し、成長させる自信を養いました。これらのスキルは、私の未来においても役立つことでしょう。

大会中、台風の影響で避難となったのはとても残念ではありましたが、避難先の救仁寺では我々日本派遣団を受け入れて頂き、普段味わえないような貴重な体験をすることができ、ありがたい話で、救仁寺の方々には感謝しかありません。

第25回世界スカウトジャンボリーで得た最も大きな収穫は、自分の可能性を信じる力です。新しい環境で新しいことに挑戦する経験が、私に勇気を与え、自分の限界を超える決意を固めました。これからの人生で、どんな困難にも立ち向かっていける自信を持つことができました。

総じて、第25回世界スカウトジャンボリーは私にとって一生忘れられない宝物のような体験となりました。参加者たちとの絆、そして自己発見は、私の人生において大きな意味を持つものとなり、国際交流を通じて広がる視野や、異なる文化を持つ人々とのつながりを感じることができました。これからも、これらの経験を胸に、地域社会や国際社会で貢献していきたいと思っています。

川本悠人

「世界ジャンボリー感想」

僕が世界ジャンボリーに行って1番感じたことは、言語が違ってても、ジェスチャーなどを使って相手に伝えようとし、理解しようとするればいろんな人と話せるということです。この派遣の目標の1つに外国のいろんな人と話して交流してみようというものがあり、それを達成するためにいろんな人に話しかけてみました。すると、どこの国のどの言語を使う人かわからない人でも英語やジェスチャーなどを使えば話し会えることがわかりました。僕は小学生の時から英会話教室に通っていたけれど、本当に英語

で話せるのかと自信がなかったので、結構英語が通じていたので嬉しかったです。このいろんな国と人とたくさん会話をするということも人生でそう多くないチャンスだと思うので、これだけでもジャンボリーに行った価値は大いにあると感じました。

もうひとつ日本との違いで大きく感じたことが、食文化です。

これは違って当たり前ですが、配給の量がとても多かったり、味付けが辛いものが多く、日本食が恋しくなってきたりしました。文化交流 DAY では色々な海外のお菓子を食べに言ったり貰ったりし、その中でもとても美味しいチューイングガムみたいなお菓子もあったり、特徴的な味のスウェーデンのお菓子があったりで、食べるまでどんなものかわからないというワクワク感があって、楽しかったです。こんな色々な国のお菓子を1日に食べたりすることはあまりできないと思うので、いい体験になったと思います。

この大会を通してジャンボリーの価値は、沢山の国から同じ目標を持った同年代の人達が集まる、ということにあるんだと考えました。何回も書いていますが、これだけの人がこれだけの国から集まるということは人生でも一度か二度しかないくらいのもとても貴重なことだと思います。だから僕は中学最後の夏、この大会に参加してよかったと思っているし、団の後輩達にも世界スカウトジャンボリーに参加してほしいと思っています。なので次のポーランドで行われる26回大会に行ってもらえるように、僕が体験した沢山の楽しく、愉快的話をし後輩達に伝えていきます。そして僕自信もこれからスカウト活動を続けていく上で、ここで起こったことや経験を活かして今までより更によいスカウト活動を送れるように努力していきたいと思っています。

井上尊生

「25 WSJ (2023.7.312023.7.31~8.1212) 報告」

今回の25th ワールドスカウトジャンボリーでは、ボーイスカウトとしての活動はもちろん、親から離れて外国に行き外国の文化に触れ、また日本の文化を外国の方々に紹介するなど貴重な体験しまし

た。気温30度を超える暑さだったため、もちろん夜も寝にくく、疲れがとれにくかったことや、シャワールームやトイレがとても汚れていて使い物にならなかったという事もありましたが、それも全てまとめて勉強となり、良い経験ができました。

外国人とのワッペン、チーフの交換や夜のキャンプファイアによる交流もでき、ワールドスカウトジャンボリーが終わった今でも連絡をとっている世界中の友人をつくることができました。

また外国人だけでなく、もちろん同じ隊のメンバーや他の日本派遣団の隊とも交流ができて、本当に色々な人たちとコミュニケーションをとることができました。指示が上手く通らず作業が繰り返しになり疲れてしまうことがありましたが、指導者の方々のおかげで日に日に作業効率がよくなり、個々それぞれが自分で考えてチームワーク良く行動できるようになりました。伝達能力も最初は何も言わなかった人でも、分からない事を「分からない」と班のメンバーや指導者に思いを伝えることができるようになりました。これもチームワークが良くなった理由のひとつだと僕は思います。

このワールドスカウトジャンボリーを通して、僕が成長したのでは？と思ったことは3つあります。1つ目はコミュニケーション能力です。先程も書いていましたが分からない事を分からないと伝え、自分の意見を伝え他の人の意見を聞くという事がジャンボリーでは重要だったので、何回もコミュニケーションを班の人達、隊の人達ととっていたからです。それに加え、外国人の方々など言語が同じではない国の人と話していたので、ジェスチャーで表現するなど工夫して自分の考えを伝える事もしたので、成長したと思います。

2つ目は判断力です。自分で考え行動しなければならない場面がジャンボリーでは多かったので成長したと思います。

3つ目は忍耐力です。とても暑いけれどプログラムに行くために何キロも歩いたり、シャワーなどが汚れて使いたくなくなったり、暑い中寝たり、色々な耐え難い困難に沢山ぶつかりましたが、「仕方な

い」「やるしかない」と思うことで、様々な困難を乗り越えました。

終わってみれば、あっという間の2週間を過ごし安全に家に帰ることができました。普段の環境がどれだけ良いか考えさせられるような大会でした。いい経験をすることができたし、友人も沢山作ることができたのでとても楽しかったです。ありがとうございました。

以上、報告します。

但井明香里

「ジャンボリーの感想」

私は、今回の第25回世界スカウトジャンボリーがとても良い思い出になると思います。なぜなら、一生に一度しかできない体験をすることができたし、同じ体験をした仲間との絆を深めることができたからです。他にも4つの理由があります。

1つ目は開会式の前の事前訓練から閉会式が終わって帰るまで一生懸命楽しく取り組めたからです。プログラム、文化交流デー、ワッペンの交換はもちろんほかの国の人と交流したり同じ隊の皆と過ごすことがとても楽しかったです。特に、プログラムで一番楽しかったのは、場外プログラムです。場外プログラムの内容は、午前中は海で午後はツリーイングだったので1日中満喫でき、とても楽しかったです。場外プログラムは隊で動いたので、きちんと話を聞いてその通りに行動したり、時間を守って行動することが重要だと思いました。

2つ目は、仲間の大切さをよく学べたことです。わからないことや困ったことがあったときに仲の良い友達と相談しあい乗り越えることができたし、隊や班の皆で協力してテントなど必要なものを作って協力して助け合うことができました。

3つ目は、ジャンボリーですと決めていた目標を達成できたことです。私は、海外の文化を体験することが目標でした。海外のスカウトと直接話して文化を知ることではできなかったけれど、文化交流の日にブラジルとトルコの伝統食を食べて2つの国の食べ物を知ることができました。ブラジルのチョコのお菓子が甘くてとてもおいしかったです。それ

に、普段のごはんで韓国料理をたくさん食べて韓国料理の味を知ることができました。

4つ目は、大会のテーマである Draw Your Dream! をこれからも続けていくことが大切と教わることができたことです。なので、今回の世界ジャンボリーを経験したということを土台にして自分の夢を描き続けたいと思いました。

今回の世界ジャンボリーは暑さなどで大変な所もあったけど一生に一度の思い出を作れたし、この楽しさを後輩にも伝えたいと思います。それに、世界ジャンボリーのために準備をしてくださった方や仲間、親、避難の時に受け入れてくださった方々への感謝の気持ちを忘れずにこれからも生活していきたいです。

天野佑紀

「25wsjの報告」

大会名：第25回世界スカウトジャンボリー
(25th World Scout Jamboree)

主 催：世界スカウト機構(WOSM)

ホスト：韓国スカウト

日 時：2023年8月1日(火)
～8月12日(土)

場 所：大韓民国 全羅北道 セマングム

テーマ：Draw your Dream! (あなたの夢を描こう)

参加者：世界スカウト機構(WOSM)正加盟の173
の国と地域他から合計50,000人

7月29日(土) 事前訓練1日目

朝の9時ぐらいに吉備サービスエリアに集合し、そこからお昼にかけて新大阪ユースホステル・KOKOLLAZAに行った。お昼に開会式・オリエンテーションを行った。午後にJTBの説明を受けた。

7月30日(日) 事前訓練2日目

午前中は分団集会を行った。午後に持って行く荷物の確認をした。夜に結団式と激励会をした。寝る前に日本派遣団のネッカチーフが配られた。

7月31日(月) 事前訓練3日目

早朝に新大阪ユースホテルから関西国際空港に行き、そこからお昼にかけて関西国際空港から飛行機で仁川国際空港（インチョン空港）に着いた。そこからホテル YMCA に泊まった。

8月1日（月）世界ジャンボリー1日目

ホテル YMCA から4,5時間かけてジャンボリー会場の全羅北道 セマングムに着いた。先に、荷物を置いて外国人 IST（国際サービスチーム）の人の説明を聞いた後に自分たちのサイトに行きテントを建てた。

8月2日（火）世界ジャンボリー2日目

夜に世界ジャンボリーの開会式が行われた。韓国の大統領の演説を聞いた。

8月3日（水）世界ジャンボリー3日目

場外プログラム（オンサイトプログラム）で午前は海で遊び、午後からは野外アクティビティーをした。

8月4日（木）世界ジャンボリー4日目

猛暑のため場内プログラムが中止になり、ワールドスカウトショップで買い物をした。

8月5日（金）世界ジャンボリー5日目

昨日同様猛暑のため場内プログラムが中止になった。夜にアメリカ人とサッカーをして交流を深めることが出来た。試合結果は1-0で勝利した。

8月6日（土）世界ジャンボリー6日目

文化交流デーで、午前は日本の文化を知ってもらい、午後からは外国の文化の体験をした。

8月7日（日）世界ジャンボリー7日目

場内プログラムがおこなれていたの乗馬体験とテコンドーをした。最後のワールドスカウトショップに行き、団の後輩たちにおみあげを買った。

8月8日（月）世界ジャンボリー8日目

台風の影響で、日本派遣団は救仁寺に避難した。

8月9日（火）世界ジャンボリー9日目

交通事故の影響でバスが渋滞に合い、予定が大幅に遅れました。しかし、午後にスカイウォークと水族館に行った。

8月10日（水）世界ジャンボリー10日目

2時間ぐらいお寺の儀式を見た。その後、台風に備えた。

8月11日（木）世界ジャンボリー11日目

ソウルにて閉会式と K-pop コンサートが行われた。

8月12日（金）世界ジャンボリー12日目

インチョン空港で寝て、インチョン空港から関西国際空港経由で、帰路につき無事自宅に到着することが出来ました。

<世界ジャンボリーを通して>

僕はこの大会に参加することによって、生まれて初めての体験をたくさんしました。それはパスポートを取得して、飛行機で海外に行き、現地で韓国の食文化を体験し、世界中の国のスカウトと触れ合えたことなどと幅広い経験ができたことです。

今回は、熱中症で多くのスカウトが病院に搬送されたり、水回りや食料が不衛生で体調を崩すスカウトもいましたが、僕は無事でした。

世界ジャンボリーの終盤に台風が来たため、期間中に撤収を余儀なくされました。だから、寺に避難しました。

環境は最悪でしたが、世界中のスカウトと交流できたことにより、視野が広がり色々なことに興味を持つことが出来ました。

土井麻里奈

「25WSJ 報告」

私たちは8月1日にジャンボリー会場へ着きました。日差しが強い中、協力してテント設営をしました。

2日目は午前中サイトを歩いていろいろな人とワッペンやネッカチーフの交換など交流を行い、午後からは開会式があったためアリーナまで2kmほど歩いて行きました。参加している国の紹介から韓国の大統領の言葉やダンスなど勉強になることから楽しいことまで貴重な時間を過ごすことができました。

3日目は午前中から場外プログラムに参加しました。午前中は海、午後はアスレチックとそれぞれ指導者の方もついていて怪我無くおもしろく楽しむことができました。

4日目、5日目は両日とも規定されている温度を超えサイトに行くもプログラムを体験することはできませんでした。

6日目は文化交流の日で私たちの隊は昔遊び、抹茶、射的を行いました。ほかの国は伝統料理を作るところやダンスを踊るところなどその国の文化とふれあうことができました。

7日目はスカウトショップへ行き、各々WSJでの記念品や限定のものを買うことができました。

8日目は台風の影響によりテント撤営を行い、バスでお寺まで移動しました。

9日目は観光でスカイウォークや水族館を楽しみました。ジャンボリー会場とは全く違った楽しみ方で韓国を楽しむことができました。

10日目は今回宿泊させていただいているお寺の舞踊鑑賞を行いました。日本とは違った魅力があり見ていて飽きなかったです。

11日目はお寺を出発し、閉会式のためソウルにある国立競技場へ行きました。閉会式とK-POPコンサートは開会式同様すごい盛り上がりでした。閉

会式が終わり仁川空港へ直行しました。フライトは8時のため各自ご飯や睡眠をとりました。

12日飛行機に乗り関西空港につきました。

今回の世界ジャンボリーではシャワーやトイレの衛生環境が整っていなかったり熱中症などの体調不良で搬送される人が絶えずニュースに取り上げられたりもしましたが開閉会式やコンサートを全力で楽しむことができたり海外のスカウトとの交流もでき、たくさんの交換品があったり思い出に残る二週間を過ごすことができました。この経験を生かしてこれからのボーイスカウト活動により専念していきたいと思います。

村本和紀

「25WSJの感想」

僕は世界スカウトジャンボリーに初めて参加しました。少し前に日本スカウトジャンボリーに行っていたのでそのような感じなのかなと思って行きましたが、全く違うものでした。

まずキャンプ地に着いて、草がとても生えていて事前になにもないところだと知っていましたが、改めてびっくりしました。テントを張って寝ましたが、とても暑く、日中も日本とあまり変わらない暑さでした。

会場で配給されたご飯がとても辛く、韓国との食の違いを感じました。

開会式でアリーナに行ったら規模がとても大きく、約5万人という僕の住んでいる倉吉市とほぼ同じ人数が同じ場所に世界から集まっていることに圧倒されました。

最初に参加したプログラムは海に行って泳ぎました。遠浅で海底に手を伸ばして砂を取ればアサリがたくさん取れました。暑い夏に合ったプログラムでした。その後、アスレチックをしました。もちろん足元がとても不安定でとてもゆれて怖かったです。

場内プログラムに参加しようとしても毎日33度超えて参加できませんでした。とても残念でしたが、そこに向かうときに海外の人と交流したり、グッズ交換をしたりして、とても有意義な時間を過ごせました。文化交流デイでは僕たちは射的や輪投げ

の縁日、折り紙やけん玉などの昔遊び、冷たい抹茶をだしました。僕は輪投げを主にしていて、とても盛り上がりました。

その日にいろんな国に行きました。シエラレオネではその国のダンスを一緒にしました。とても楽しかったです。イタリアでは本場のパスタを実食しました。他にもスウェーデンやオーストラリアなどの食べ物を食べました。それぞれ特有の味があり、味覚の違いを知ることができました。

大会終了数日前に台風の直撃予報が出て、急遽お寺に避難しました。その近くで、スカイウォークや水族館に行き、寺で無形文化遺産のショーも見ました。

この二週間を通して、様々な体験ができ、自分の視野が広がり成長することが出来たと思います。この経験を活かし、今後に繋げて行きたいです。

山脇阿紋

「世界ジャンボリー」

今回の世界ジャンボリー参加するにあたって僕は海外へ行くことへの興味はあったが、なにをしたいかななどを、いまひとつ具体的なことがイメージがうかびませんでした。ただ僕は食べることがとても好きなので、韓国の料理を調べてみたり、自分のキャンプサイトまわりの国の料理や文化などをインターネットで調べたりしました。

実際会場入りした初日に、自分のキャンプサイトの準備をしている時、香港派遣団のジョンという人が話しかけてきました。すると、腕相撲をしようとジェスチャーをしてきました。僕は「YES!」といって大きくうなずき勝負をしました。結果負けましたが、その後ジョンとは最終日まで何度も勝負をし最後は勝つことができました。ジョンとは世界ジャンボリーが終わった後も連絡を取り合ったりしました。

2日目開会式がありました。そこでは、メキシコ人とスウェーデン人と仲良くなりました。メキシコ人は開会式前のサブキャンプの集合場所で出会いました。その時チェコラテゲームを教えてもらい仲良

くなりました。その後最終日にその人とコンビニで偶然会い「おお!!」と2人で再会を喜びました。スウェーデンの人とは開会式の前日に水汲み場で出会い僕が話しかけ、名刺を交換しました。その後開会式の会場へ歩きにいとっていると、スウェーデンの派遣団が後ろへきました。そこで僕は名刺かいてあったものと見覚えのあるものがあり、名刺をスウェーデン人見してみるとちょうどその隊に、名刺を交換した本人がいました。僕はそこで奇跡だと思い名刺を交換したスウェーデン人ととても盛り上がりました。

また今回やってよかったと思うことはSNSの活用です。僕はワッペンなどを交換した後、Instagramを交換していました。そしてある日Instagramを交換したメキシコ人から派遣団バックを交換しようというメールが来ました。僕はそこでOKをし、メキシコのバックと交換しました。SNSを活用したことでバックを交換できたのでよかったと思いました。

今回の交流は言葉も大切だけど僕は積極的に話しかけたりコミュニケーションをとることで言葉は通じなかったけどお互いにわかりあえることができたことを体感できました。

山本莉輝

「第25回世界スカウトジャンボリーの感想」

今大会のテーマは「Drow your dream」でした。僕はこの大会に参加したことで、自分の夢を広げる想像力、夢に近づくための貴重な経験、そして実際に夢をかなえることを実現することができました。また、そのすべてが一生もののとても楽しい思い出となりました。

まず自分の夢を広げる想像力についてです。

第一に、この大会に参加することが自分にとっての初の海外経験でした。当たり前ですが外国は本当にあるということを実感し、文化や趣向の違いを体感しました。

第二に、韓国の人のおもてなしに感動したことです。よく日本のおもてなしはすごいと聞きますが、韓国もすごくて感動しました。やはり日本にいるだ

けでは情報が偏るようです。詳しく書くと長くなるので省略しますが、韓国のホテルやスタバ、お寺でおもてなしに感動しました。さらに、文化交流デイでも、各国のおもてなし精神に感動しました。

次に夢に近づくための貴重な経験についてです。

第一に、こんなにも多くの国々の若者たちと交流しあえる経験はとても貴重だったと思います。交換はもちろん、外国スカウトと一緒にトランプやバレーボールをした経験によって、英語さえ少しできれば誰とでもコミュニケーションとれるし、なんならできなくてもどうにかなることがわかり、外国人を外国人だと感じないようになりました。

第二に、過酷な環境を体験できたことです。ネットでは気候や衛生がひどくトラブル続きだったといわれていました。確かにそういうところもあったのかもしれませんが、災害時など自然に翻弄される生活を送らなければならない状況に陥る可能性もあり、それをストレスも少なく生きぬけるような経験を積めたと思います。何が起こるかかわからないミステリーなキャンプも楽しいものでした。

そして実際に夢を叶えることができたことです。僕は今回の大会において外国スカウトとの交流を重要視していました。自分から話しかける勇気も持っていたし、いろいろ準備したものも使え、一緒に遊ぶこともできました。このように夢を叶える体験もできました。

こうして、大会テーマ通りに大会を楽しむことができました。30 隊、ペンギン班の仲間も一生ものの宝物だと思います。最後に、準備から帰るまでものすごい労力や時間をかけて僕たちを安全に楽しませてくれたリーダー、長らくサポートしてくれた自隊の指導者の方々、多大なお金や時間をくださった家族にも感謝しながら今大会の経験を活かし、夢を描き続けたいと思います。

足立将悟

「25WSJ の感想」

ぼく達、ボーイスカウト日本派遣 E 分団第 30 隊は八月一日から十二日まで、第 25 回世界スカウトジャンボリーに参加してきました。

ぼく達は開会式の四日前、七月二十九日から準備訓練をした後、三十一日に韓国の仁川空港に着き YMCA で一泊した後、翌朝会場に向かいました。この四日間も隊又は班で活動することは怠らずに、ジャンボリー会場への期待をふくらませながら、バスで五時間かけて移動しました。

しかし、残念ながら会場はぼくが思っていた場所とはかなりちがいました。三十隊全員が思ったかもしれませんが、前日の雨により会場の地面は柔らかく少し心配していましたがそんなに悪くありませんでした。イメージとはちがいましたが、一日目はキャンプ場、テントの設営を隊のみんなと行いました。

二日目は当時 C エリアのアドベンチャーに参加する予定でしたが、急に中止になりました。たぶん自分達の隊だけだったと思います。

その日は開会式で、とても派手な演出とかなりえらい人のスピーチなどがとても印象に残っており、かなりこの後が楽しみでした。

三日目は場外プログラムをやりました。バスで移動したのち、松林を通して水着で海を泳ぎました。その海の中にたくさんのあさがいたのをおぼえています。午後は松林の中にできたアスレチックを楽しみ、軽いスリルを感じました。

六日は宗教儀礼・文化交流の日で、ぼくはバディとともに、インド・インドネシア・イタリア・オーストラリアと交流しました。オーストラリアとは三、四日であまりできなかった交換をたくさんして楽しかったです。インドネシアでは女の子たちとちょとしたゲームでもりあがり、バリという島の絵はがきをもらいました。インドでは、手に茶色のもようを描いてもらい辛いものから甘いものまで幅広くいただきました。イタリアでは、チーフリングを多く交換しました。

また、この頃腕に吹き出物が出てかゆくて痛かったです。日焼けのせいかもしれませんが日焼け止めやアームガードをしてもそんなによくなりませんでした。

八日から十一日にかけて山奥の救仁寺という寺院に日本派遣団全員が一時避難をしました。理由は台

風六号が西側に傾き出したからです。三十隊は光明殿の六階に泊まらせていただきました。

ジャンボリー会場とは少しちがいが食事はまともでした。食後におかしなどがもらえたことがうれしかったです。一日目はスカイウォークと崖の近くで不安定な橋を雨天候の中、行いました。その後近くの水族館に行き、様々な魚や動物を見ました。個人的にはカワウソが一番可愛かったです。二日目は土砂降りの雨だったので外出はできませんでしたが、寺院で行う作法を体験しました。その寺は真言宗で日本とは関わりが深いのだとわかりました。三日目は寺にお世話になりバスでソウル市内のドーム会場で閉会式兼 K-POP コンサートがありました。そこで夕食が提供されましたが、寺院とちがいかなりテキトーでした。

閉会式が終わり、皆が楽しみにしていたコンサートが始まりました。J-POP にひけをとらないほど歌のうまい人が多く最後までかなり楽しめました。その後仁川空港に行きその中で仮眠をとったり、KFC のセットを食べたりして、四日目に帰国しました。

ぼくはこの世界ジャンボリーの感想を一言であらわすと「破天荒」だったと思います。トイレやシャワールームが汚かったり、熱中症の対策がグデグデだったりと色々ありましたが、それでも様々な国の人とたくさん交流できたことはいい思い出だし、隊や班のチームワークがよかったりと、良い意味でも悪い意味でもかなりすごいイベントだったと思います。国が何億も出して失敗してしまった、第 25 回世界スカウトジャンボリーは今でもいろんな意味で印象深いイベントでした。それから、飛行機に乗るのが初めてなのでワクワクしました。

鷲見洸吏

「第 25 回世界スカウトジャンボリー」

今回世界スカウトジャンボリーに参加して一番心に残ったのは海外のスカウトとの交流です。今までスカウトとしての活動で外国スカウトと関わった事がなかったので初めは言語などが異なり、戸惑う場面も多かったけれど、たくさんの交換が最終的にできたのでとても良い経験となりました。

また、身体を健康に保つ事の重要性がよく分かりました。今までの活動では昨年日本ジャンボリーが最長でした。今回のキャンプでは猛暑に加えて、日本ではないため、食事少し異なっており、体調管理がととても大変でした。ですが夜更かしをしないできちんと食事を残さず摂る事で生活リズムが整っていき、2、3 日で慣れる事ができました。その結果、元気に日中活動を行う事ができ、生活の上で余裕ができるようになりました。

しかし、熱中症対策でオンサイトプログラムが中断したり、台風で避難しなければならなくなったのが少し残念でした。でも、隊長もおっしゃっていた通り、猛暑や台風などの自然には太刀打ちできないため、プログラムに行けない分、外国スカウトと多く交流したり、スカウトショップで原隊へのお土産を購入したり、洗濯やシャワーに余裕をもって行ったりと時間を有効活用できたので楽しむことが出来ました。

今回のジャンボリーで身についたと思ったことは、協調性やスカウトスキルの向上などありますが、1 番はコミュニケーション能力だと思います。相手に自分の母国語である日本語が通じない環境でコミュニケーションをとるのは簡単ではありませんでした。ジャパンデイでの割り箸鉄砲のルールの説明や、外国スカウトとの交換で自分の交換品を説明する時など、とても苦労しましたが、カタコトでも相手が理解しようとしてくれたので何とか説明することが出来ました。

最後に今回のジャンボリーで、今まではベンチャーでボーイスカウトを辞めようと思っていましたが、次のポーランド大会にも IST として参加したいなと思い、高校卒業後もボーイスカウトを続けようと思いました。今回の経験はなかなかないことだと思うので、原隊のカブやボーイにこれを伝えて、参加したいなと思ってもらいたいです。

このジャンボリーはネットニュースで批判の声が多くありましたが、自分はとてもよいジャンボリーだったと思います。この度は隊長、副長を始めとする多くの方々のおかげで楽しく、健康に過ごすことが出来ました。本当にありがとうございました。

有田彩香

「世界ジャンボリーに参加して」

私がジャンボリーに参加したいと思った理由は、外国のスカウトと交流してみたい、韓国についても深く知りたい、現地に行ってみたいと思ったからです。

ジャンボリーで一番心に残っていることは、班のスカウトと協力してご飯を作ったことです。最初の頃は何をしていいかわからず、何もできないまま見ているだけで、班長や班員に任せていましたが、回を重ねるにつれ段々周りを見て行動できるようになりました。みんなで作ったご飯はとても美味しく、何よりの思い出になりました。

このジャンボリーで苦しいと感じたことは、韓国(セマングム)は想像以上に暑く、大量に汗をかいていてもシャワーに入れないことが何日かあったことです。飲み水が足りないこともあったので、のどが渴いてしんどいと感じることもありました。

そんな中、8月8日は台風の影響でキャンプ地から離れ、お寺に泊まることになりました。その時、準備をしてくれていた韓国の人が、すれ違うと「ご飯食べた?」「元気?」と気づかせてくれたり、重い荷物を持っているときに手伝ってくれたりしたことは、ありがたく、とてもうれしかったです。

そして残念なことに帰国する2日前にコロナにかかってしまい、発熱、喉の痛みと倦怠感があり、その日は活動ができませんでした。もしかしたら30隊のスカウトと一緒に帰れないかもしれない、楽しみにしていた閉会式・コンサートにも行けなくなるのでは、と不安でいっぱいでした。けれど、体調を心配して声をかけてくれるスカウトがいたり、閉会式に出られるよう配慮していただいたおかげで、ジャンボリーのよい思い出となったと思います。

外国のスカウトも、明るく声をかけてくれる人もいるし、ノリノリで歌を歌って踊ってジャンボリーを思いっきり楽しんでいる人もいました。私はインドネシアの人とよく話しました。日本語を話せる人がいて、とても会話がはずみました。一緒に写真を

撮ったり、ドラマの話をしたり、ワッペン交換できたことが嬉しかったです。

私が今回のジャンボリーで心残りだったことは、英語や韓国語でもっと外国のスカウトと交流したかったということです。話しかけられても返事が返せなかったことがあったので、もっと英語力をつけてコミュニケーションがとれるようにになりたいと思いました。

今回のジャンボリーではたくさんの出会いと学びがありました。自分とは違う考えや、価値観の人と触れ合うことができて、とても刺激を受けました。楽しかったです。最後に、30隊のスカウト、指導者のみなさんのおかげで、良い思い出を作ることができました。ありがとうございました。

湯原啓二郎

「第25回世界スカウトジャンボリーの感想」

私は、今回の第25回世界スカウトジャンボリーに「さまざまな海外スカウトと交流し、お互いの文化を理解する。また、キャンプでのスキルを磨く。」を目標にして参加した。これを実現するために私はなるべく自分から話しかけてワッペンなどを交換しようとした。しかし、なかなか言葉が通じないため困ってしまった。自分のコミュニケーション能力の低さと言語能力の低さを実感した。言葉が通じないことの恐怖で、自分から率先して話しかける事が出来なくなってしまった。

ところが、私の班のベンチャースカウトで英語がほとんど出来なくても多くのものを交換し、海外スカウトともものすごく仲良くなれているスカウトがいた。私は彼に、なぜ海外のスカウトに積極的に話しかけて、仲良くなれているか聞いた。彼は「僕も英語はよくわからないけど常に笑顔で自分から交換を求めればいいよ」と教えてくれた。私はそれから常に笑顔を意識して海外スカウトに話しかけるようにした。すると相手も笑顔で対応をしてくれ、交流しやすくなった。また日本の仲間と一緒に行動することで一人で行くより多くの交流をすることが出来た。海外のスカウトは、どんどん自分から話しかけてきてすごくフレンドリーだった事もあり、結果的

に多くの海外スカウトと仲良くなれて、ワッペンやチーフを交換することができた。短い交流の間でも話した時のリアクションやノリでその国の文化を感じることが出来た。またワッペンでも色彩やデザイン、材質でその国の文化を感じる事が出来た。私も「こんにちは」などの簡単な日本語を教えたりして日本の文化を伝えた。

スキルの面では、同じ隊の高校生のベンチャースカウトから多くの事を学んだ。例えば、私は在籍している団で班長を務めているので、班長としての班員への指示の出し方などを学ぶことが出来た。各班員の個性を理解し、よりの確にわかりやすく指示を出すことの重要性を学んだ。ベンチャースカウトに限らず隊のメンバーととても仲良くなり、最後には握手をして良き友になることが出来たと思う。隊のスカウトだけでなく、日本派遣団のみんなとも仲を深めることが出来たことも自分のスキルアップにつながると思う。

今回の世界スカウトジャンボリーは熱中症や台風の接近などとても大変な事が多かったが、楽しいことも多かった。まず私は初めての海外だったので海外に行くだけですごく楽しかった。また韓国の街を歩いて韓国の文化を体験することが出来た。会場から避難した後も、水族館に行ったりして、とても楽しい思い出を作ることができた。移動時間が長くなったが移動中のバスで話をしたり窓から外の景色を見るだけでとても楽しかった。

今回の世界ジャンボリーで学んだ事を活かして今後のスカウト活動に繋げていきたい。そして4年後のポーランドで行われる世界ジャンボリーに参加したい。

三宅蘇芳

「25WSJに参加しての報告」

1. 今回のWSJに参加した理由

今回、25WSJに参加したのは3つの理由があります。まず1つ目に24WSJの参加にあこがれたからということがあります。アメリカに派遣団として参加した八木史考ベンチャースカウトの報告書を

見て、WSJに対して強い興味を持ったことが1つです。

2つ目に外国人スカウトと交流をし文通やチーフ等の交換をしてみたかったからです。スカウトチーフを2つ以上持つことがなかったので外国スカウトのチーフを付けてみたいという理由や見たこともない外国のワッペンを手に入れたいという理由が2つです。

3つ目にスカウト活動についてもっと知りたかったからです。僕のスカウト活動は基本的に自分の団だけでしか活動しておらず、他の団との交流がないためスカウティングの具体的な内容が分からずにいました。WSJでは国内だけでなく国外のスカウトとも交流があるのでスカウティングについてもっと知りたいと思ったのが3つ目の理由です。

2. WSJに参加して

今回のWSJで気づいたことは隊や班の活動の中で4つあります。

まず1つ目は交換や交流についてです。外国人との交流の中でWSJ中は英語で話をしました。

僕は英語が得意ではないので、大きな不安を抱えていました。でも実際に交流をしてみるとジェスチャーや相手の表情、リアクションなどで相手の言いたいことは少し分かるような気がして会話も弾みました。僕がWSJ中に一番印象に残った交流はブラジル人との交流で、日本のアニメ「ワンピース」の話で盛り上がり二人で好きなキャラの話をしました。そのときに僕がI like frunky.というとき相手はOh! Frunky! very nice.と言いました。そのあとの会話は具体的に何を言っているのか分かりませんでしたが、ジェスチャーなどから好きなシーンの話をしていると思い、僕も好きなシーンをジェスチャーで返しました。すると相手もそのジェスチャーを理解してくれて同じポーズを取りました。最初は言葉が通じるか不安でしたが、ジェスチャーやリアクションで相手の言っていることが伝わったときにはうれしいと同時にその不安が解消されました。

交換でもそれは一緒でした。相手が求めている交換品は言葉では分からなかったが、相手のリアクションと表情で大体の言いたいことが分かりました。

2つ目は班の活動時、班員が班長に自分の考えを提案していることがすごいと思いました。僕はボーイ隊の班長をしていますが、班員から活動に対しての提案があることはあまりなかったので、WSJでは班長や次長でない人も班活動に主体的に取り組んでいるということがとてもよく分かりました。これは今後、僕たちの隊でも話し合って取り組んでいきたいと思います。

3つ目は污水やごみの処理についてです。僕の隊では食後の汚れた食器や炊具をそのまま水で洗うので、食べ残しやソースなどが全て污水バケツに入り、污水の処理に毎度困ります。WSJでは食器や炊具をまずペーパーでふき取ってから洗うので、污水バケツにごみが入ることがありませんでした。次にごみの処理についてですが、僕の隊ではごみの分別をせずにほとんどのごみを1つのごみ袋にまとめていました。WSJではごみの分別をしっかりと、ごみの処理に困ることが少なかったです。この2つの取り組みは自分の隊に戻ってから伝えたいと思います。

最後の4つ目は寺への避難生活についてです。急な避難でも寺の人たちは僕たちに食事や寝るところ、トイレなどの衛生面が整った環境を用意してくれました。他にも寺で住職や職員の方にであったときには日本語で「こんにちは」と言ってくれました。急に避難したけれどこういう対応をしてくれるのは僕としてはとても嬉しかったのと、このような対応は僕たちスカウトとしても見習うべきだと思いました。

最後のまとめとして、僕は今回のWSJを経て見習わないといけないことがたくさんあり、そのようなことを経験できたことが一番よかったことです。ISTやスタッフ、お寺の方の対応がすばらしくて、そのような態度を見習いたいと思いました。

Facebook・Instagram

大会期間中の状況を保護者や参加スカウトの所属隊の方々にお知らせする為に Facebook と Instagram で随時情報の発信をおこなった。高橋理子副長が担当し、日々の活動の合間に投稿していった。

隊のグループ LINE でスカウトからも写真の提供を受け、ジャンボリーの日常を伝えることができた。





25WSJ Japan Unit30

★お気に入り · 7月29日 13:55 · 🌐

...

7月29日 13時30分

30.31.32隊が新大阪ユースホステルに到着しました。スカウトたちは久しぶりの再会に喜びを見せていました😊

髪型が違うからわからなかった!!などの声もきこえていましたが、これから2週間しっかり仲を深めてくれることでしょう。

本格的にみんなで集まりジャンボリーが始まります。

みなさん、応援よろしくお願いしますね😊

#25WSJ

#Japanunit30



👍❤️ 富澤 正徳、廣田 利香、他20人

👍 いいね!

💬 コメントする

➦ シェア



コメントを入力...





25WSJ Japan Unit30

★お気に入り・7月29日・🌐

...

29日 17時30分

開会式、オリエンテーション、隊集会Iを終えやっと夕食です🍽️

みんな移動に疲れてて、今日の内容は頭に入っているかな?! パスポート管理しっかり頑張りましょう!

#25WSJ

#Japanunit30



👍❤️ 富澤 正徳、廣田 利香、他22人

👍 いいね!

💬 コメントする

🔗 シェア

班で用意した横断幕1 鹿班、白兔班 (Facebook 未掲載)





班で用意した横断幕2 MOMOTARO 班、ペンギン班 (Facebook 未掲載)





25WSJ Japan Unit30

★お気に入り · 7月30日 12:10 · 🌐

7月30日

今日は、プログラムについて話し合いをしています。
割り振られているプログラム日程ごとに班でやってみたいアクティビティを決めたりしてます。
スカウトたちは挑戦してみたいことが沢山あるようで言葉が沢山交わされています 🥳🥳

#25WSJ

#Japanunit30



👍 富澤 正徳、廣田 利香、他22人

👍 いいね！

💬 コメントする

➦ シェア



コメントを入力...





25WSJ Japan Unit30

★お気に入り・7月30日 23:51・🌐

7月31日 午後の活動👉

午後は、自分の荷物を飛行機に乗るためにデイバックとダブルバックの詰め替えを行ったり、ダブルバックの大きさ重さを計ったり、測ったりしました。規定内になるよう紐で縛るなどして工夫していました👉

夜ご飯の後は結団式、壮行会が行われました。

保護者、そして指導者から弼栄をうけ、日本派遣団のチーフになり、スカウトたちもワクワクドキドキしています。

明日は6時にホテルを出発します。体調を万全に韓国へ行って参ります👉

#25WSJ

#Japanunit30



👍 富澤 正徳、廣田 利香、他20人

👍 いいね！

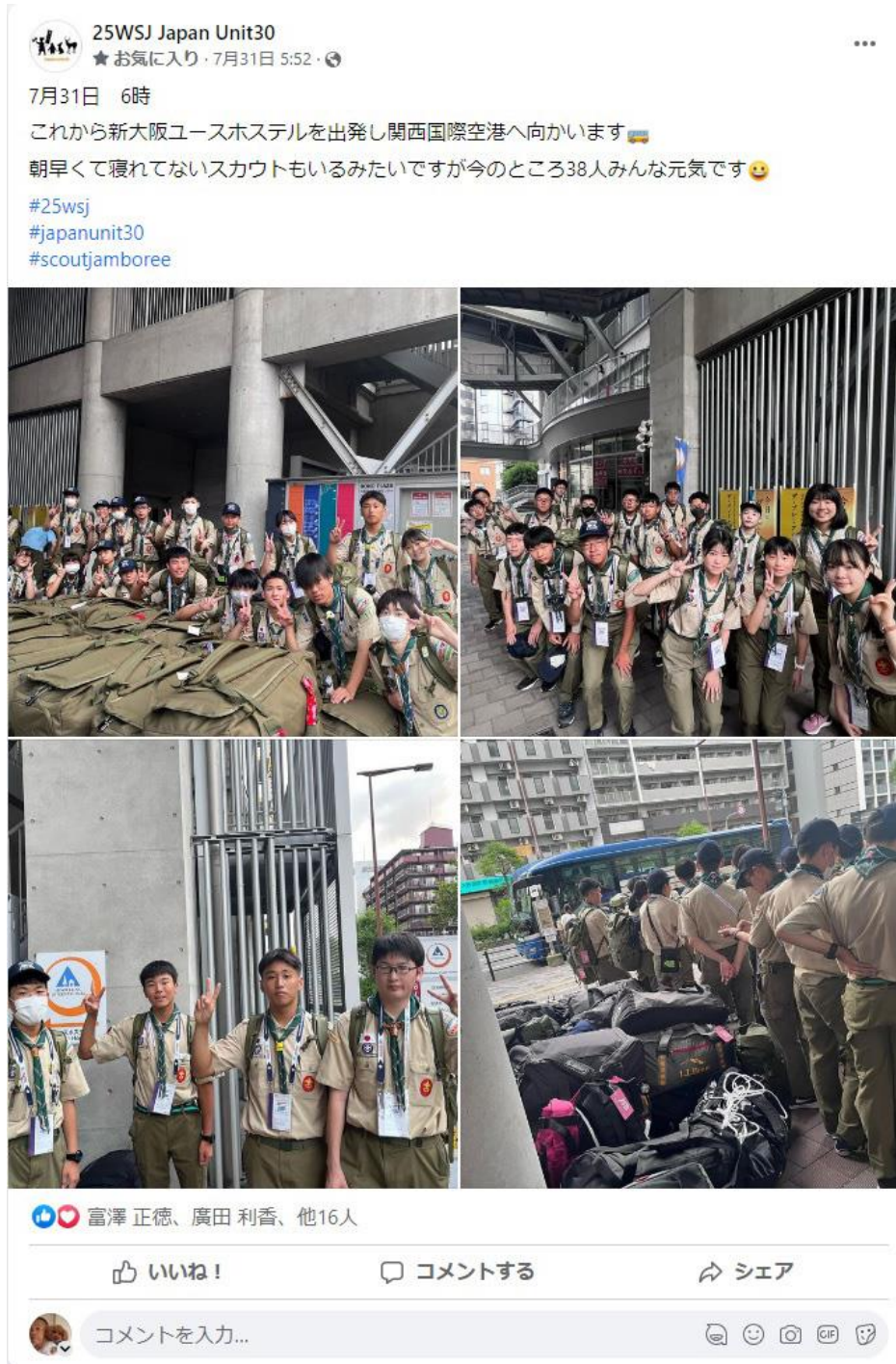
💬 コメントする

➦ シェア



コメントを入力...





日本派遣団のチーフ、帽子、ID カード (Facebook 未掲載)





25WSJ Japan Unit30

★お気に入り・7月31日 10:18・🌐

...

7月31日 10時

もうすぐ出国です！手荷物検査では慣れないことに戸惑い引っかかるスカウトもちらほらいましたがみんな無事通過できました。

フライトは10:55です✈

#25wsj

#Japanunit30

#scoutjamboree



👍 富澤 正徳、廣田 利香、他19人

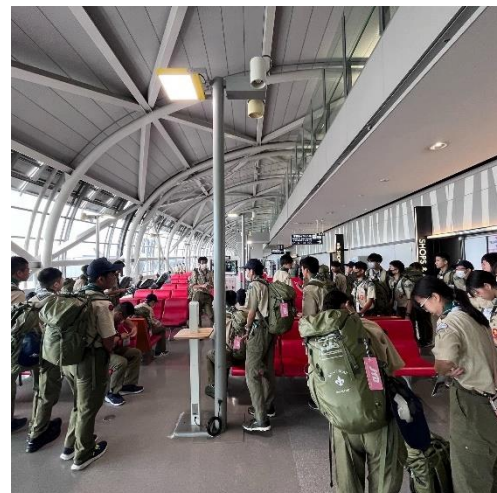
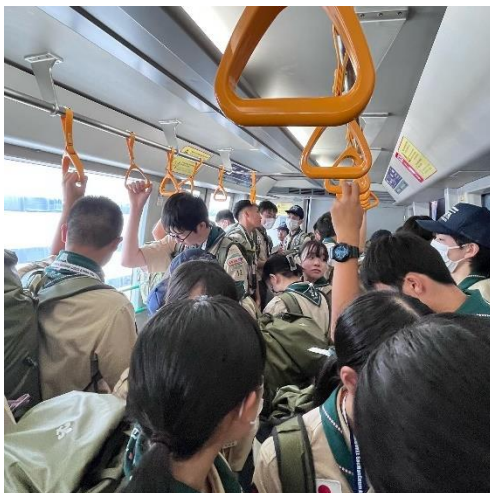
👍 いいね！

💬 コメントする

🔗 シェア



コメントを入力...





25WSJ Japan Unit30

★お気に入り・7月31日 10:49・🌐

飛行機に乗りました。
2時間のフライト楽しめます✈️

#Japanunit30



👍❤️ 富澤 正徳、廣田 利香、他16人

👍 いいね！

💬 コメントする

🔗 シェア



コメントを入力...





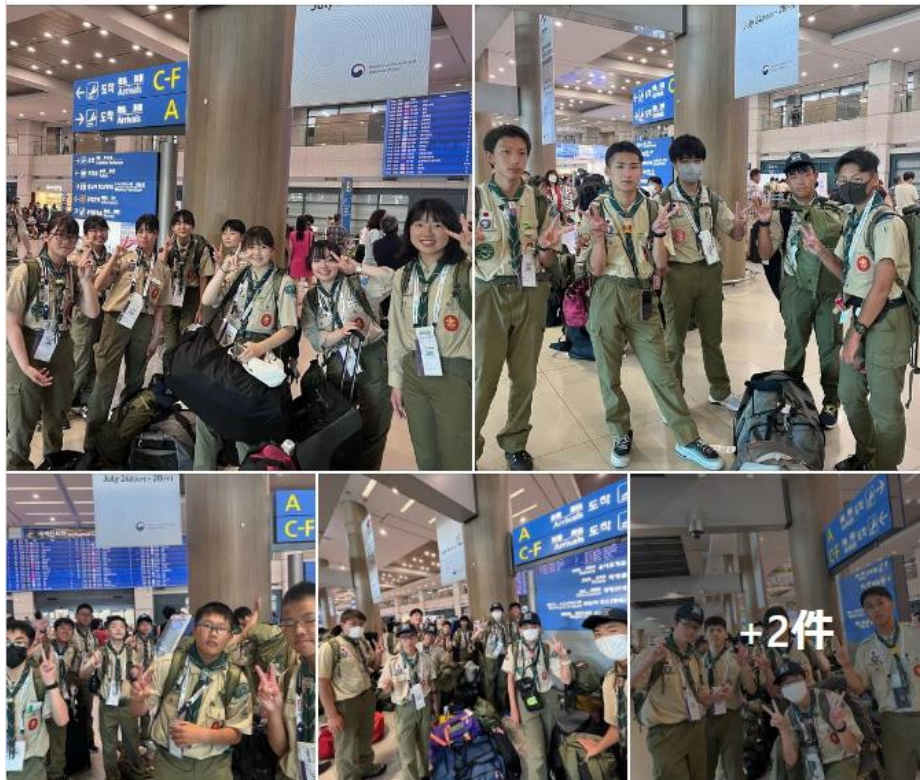
25WSJ Japan Unit30

★お気に入り・7月31日 13:53・🌐

7月31日 13時

韓国の仁川空港に到着しました🇰🇷

#japanunit30



👍 富澤 正徳、廣田 利香、他20人

コメント1件

👍 いいね！

💬 コメントする

🔗 シェア



コメントを入力...

🗨️ 😊 📷 📎 🗑️



富澤 正徳

8/1いよいよ会場入りですね

ネット検索した天気予報では37度予想（驚
頑張って！

いいね！ 返信する 3週間





25WSJ Japan Unit30さんはYmca고양국제청소년문화센터에 있습니다。

★お気に入り・8月1日 7:59・韓国高陽市・🌐

...

7月31日 19時

ユースホステルに着いて時間ができたので、班に分かれて市街地を散歩しました。韓国のスーパーやコンビニに寄ったり、街を散歩したりして韓国の街の雰囲気を沢山味わいました🥰
韓国の街の様子はぜひスカウトに帰ってから聞いてみてください！

#Japanunit30



👍 富澤 正徳、他21人

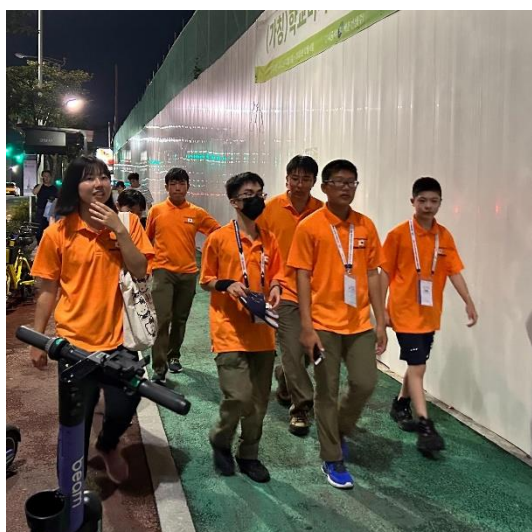
👍 いいね！

💬 コメントする

🔗 シェア



コメントを入力...





25WSJ Japan Unit30

★お気に入り・8月3日 9:47・🌐

...

8月2日

午前中はサイトの設営と洗濯をしました。

午後はそれぞれシャワーを浴びてから、会場にあるコンビニに行きました 🇺🇸 アイスを買ったりジュースをかったりしてほっと一息、

16時半からは夕食を作り、18時に開会式へ向かいました！！

#25wsj

#japanunit30

#scoutjamboree



👤 富澤 正徳、他30人

👍 いいね！

💬 コメントする

➦ シェア



コメントを入力...

🗨️ 😊 📷 📄 📷





大会チーフ（ピンク：指導者、青：スカウト）、チーフリング、大会 ID
(Facebook 未掲載)





25WSJ Japan Unit30

★お気に入り · 8月4日 6:48 · 🌐

8月2日

夜20時から開会式がありました！警備はとて厳しくアリーナに入る前に荷物検査がありました😓
だけどみんな元気にワイワイ楽しんでいました！

#25wsj

#Japanunit30

#scoutjamboree



+5件

👍 27

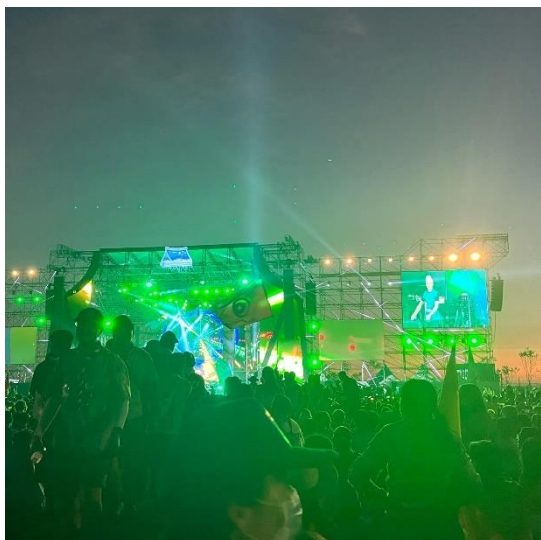
👍 いいね！

💬 コメントする

➦ シェア



コメントを入力...





25WSJ Japan Unit30

★お気に入り・8月4日 7:01・🌐

...

8月3日

本日はアウトサイドプログラムでした！

バスに乗り場外にでて海と森のアクティビティを体験してきました！！

海は暑い日にぴったりでとても気持ちよかったですし、森も影がたくさんありとても過ごしやすかったです！！

日本でもジャンボリーについてのニュースが流れていると思います。現在のところ30隊は誰も体調不良者も出ず元気に過ごしています😊これからの活動も熱中症、日焼けに注意しながら活動するよう心がけていきます❤️

#25wsj

#Japanunit30

#scoutjamboree



👍❤️ 富澤 正徳、他38人

コメント1件 シェア1件

👍 いいね！

💬 コメントする

➦ シェア



コメントを入力...

🗨️ 😊 📷 GIF 🗨️



富澤 正徳

オープニングセレモニー後、ずっと救急車のランプとサイレンが続いてたとか、400名以上が熱中症搬送されたニュースなど見ましたが、みんな元気に楽しく活動してるようで安心しました。

スローライフを基本に目一杯楽しんでくださいね！

(*^~^*)♡

いいね！ 返信する 3週間



25WSJ Japan Unit30

★お気に入り・8月5日 12:03

...

8月4日

この日は気温が33℃を上回っていてプログラムが一時中止になりました。スカウトたちはそんな中でも色々な展示ブースなどにたちより楽しんだり交流をしたりしていました！！

また、夕方は6日に行われる文化交流DAYの準備について話し合いを行いました。

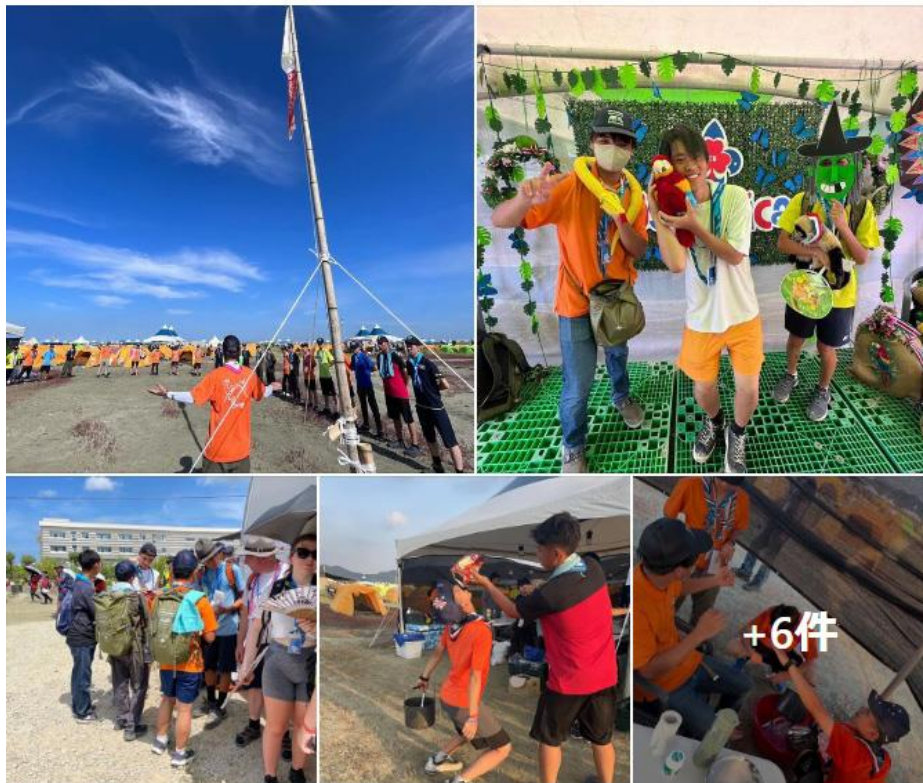
ニュースを見て、知っているかたもいると思いますが、イギリス全隊が本日で撤退することとなりました。非常に残念です。

30隊も熱中症や衛生面などに十分注意しながら頑張っていきます🍌🍌

#25wsj

#japanunit30

#scoutjamboree



👍❤️ 富澤 正徳、他31人

コメント1件 シェア1件

👍 いいね！

💬 コメントする

➦ シェア





25WSJ Japan Unit30

★お気に入り・8月7日 7:01・🌐

...

8月5日

投稿が遅くなってしまってすみません🙇

大会が始まってから5日目気温が高くプログラムに出かけていっても一時中止で中々プログラムに参加ができない状態が続いています。

午後は6日にある文化交流DAYに向けて準備を行いました！！

この日熱中症が2人出ましたが、今はみんな元気に活動できています。

#25wsj

#Japanunit30

#scoutjamboree



👍 富澤 正徳、他28人

シェア1件

👍 いいね！

💬 コメントする

➦ シェア



コメントを入力...

🗨️ 😊 📷 📎 🧐





25WSJ Japan Unit30

★お気に入り・8月7日 7:21・🌐

8月6日

朝はスカウトウオンサービスを行いました。

#25wsj

#Japanunit30

#scoutjamboree



👍❤️ 富澤 正徳、他21人

シェア1件

👍 いいね！

💬 コメントする

➦ シェア



コメントを入力...

🗨️ 😊 📷 📺 📺 📺





25WSJ Japan Unit30

★お気に入り・8月7日 7:29・🌐

...

8月6日

1日かけて文化交流DAYを行いました。日本の文化や遊びを教えたり、他のサイトに行って教えてもらったりと色々なスカウトと交流ができました。

#25wsj

#japanunit30

#scoutjamboree



👍❤️ 富澤 正徳、他33人

コメント1件 シェア1件

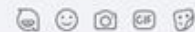
👍 いいね！

💬 コメントする

🔗 シェア



コメントを入力...



Takahashi Rie

ステキな文化交流ができたようですね🎉
福笑いも射的も外国隊スカウトがとても良い表情をされていて、みんなもやり甲斐を感じることができたことでしょう💖
浴衣も甚平さんも👍
おもてなし 大成功!!

いいね！ 返信する 2週間





25WSJ Japan Unit30

★ お気に入り · 8月8日 12:30 · 🌐

...

8月7日

各班色々なプログラムにやっと参加できました👏

しかし、8日に撤退するとのことで急いで交換をしたり、お土産用にスカウトショップに行ったりしました！！

やっとスカウトたちも環境に慣れて来たところでしたが、台風には負けてしまうので避難をします💧

#25wsj

#japanunit30

#scoutjamboree



富澤 正徳、他30人

シェア1件

👍 いいね！

💬 コメントする

🔗 シェア



コメントを入力...









25WSJ Japan Unit30さんは만천하스카이워크에 있습니다.
★お気に入り・8月11日 13:50・韓国Danyang・🌐

...

8月9日

昼食の後は市内観光 🌟

No.1スカイウォークにいきました。高いところはみんな大好きでとってもはしゃいでいました♪
また、元々予定されていなかった観光ができてスカウトは嬉しそうです。

#japanunit30



👍❤️ 富澤 正徳、他21人

シェア1件

👍 いいね!

💬 コメントする

➦ シェア



コメントを入力...







クインサでの食事 (Facebook 未掲載)





25WSJ Japan Unit30

★お気に入り・8月11日 14:23・🌐

...

8月11日

朝荷物の積み込みを行い、お寺を出発しました。
今はソウルにある閉会式会場(国立競技場)に向かい中です。

#japanunit30



👤 富澤 正徳、他21人

シェア1件

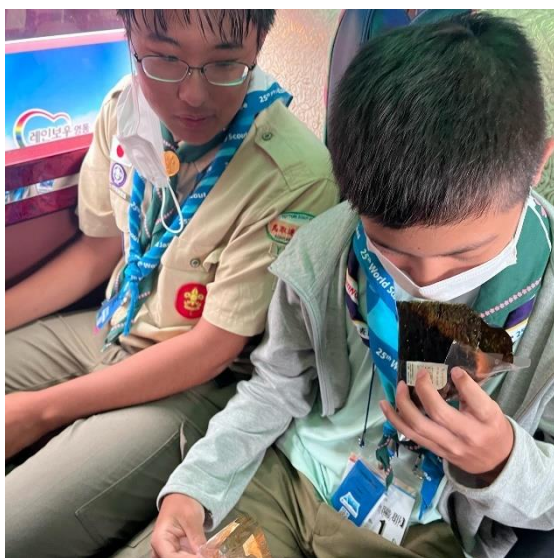
👍 いいね!

💬 コメントする

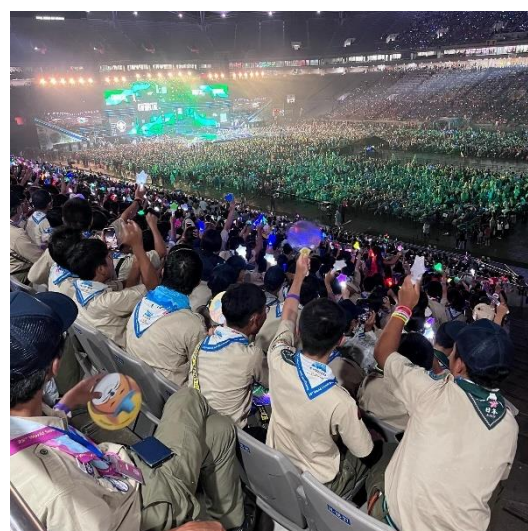
🔗 シェア



コメントを入力...









25WSJ Japan Unit30さんは인천공항 Incheon Airportにいます。

★お気に入り · 8月12日 5:53 · 韓国仁川広域市 · 🌐

...

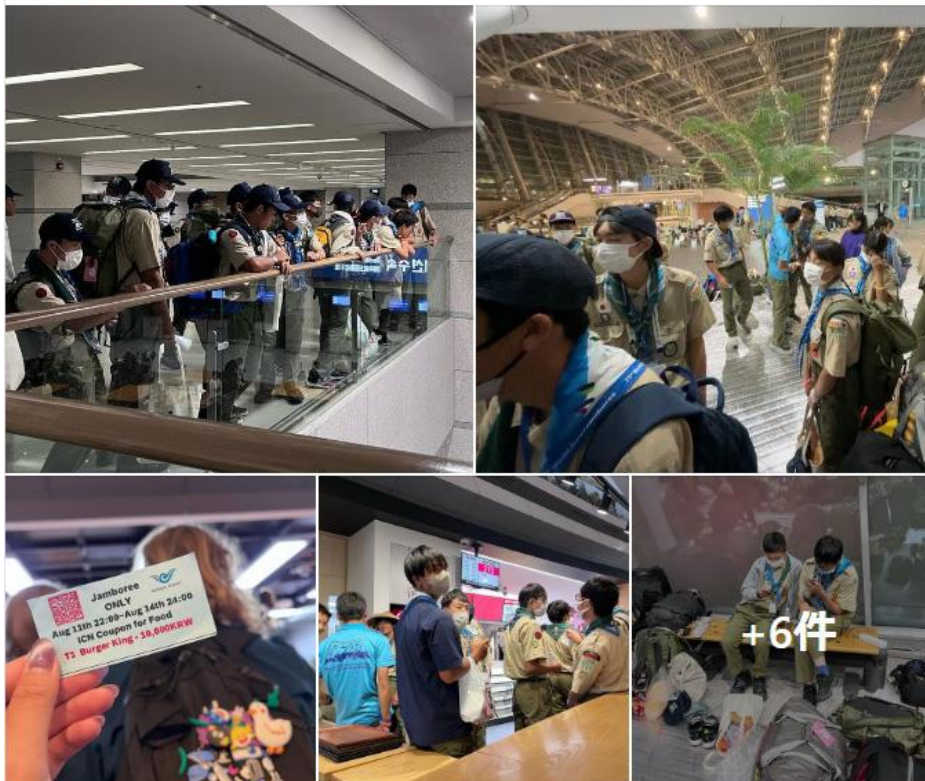
8月12日

閉会式とk-popコンサートの後仁川空港に直行しました。
ご飯の券をもらって自分たちで買いに行ったり、寝て疲れをとったりしました。
フライトは8時です✈️

#25wsj

#japanunit30

#scoutjamboree



👍 富澤 正徳、他25人

シェア1件

👍 いいね！

💬 コメントする

➦ シェア



コメントを入力...





25WSJ Japan Unit30

★お気に入り・8月12日 12:23・🌐

...

8月12日

仁川空港をから関西国際空港に帰ってきました。

#japanunit30



👍 富澤 正徳、他25人

コメント2件

👍 いいね！

💬 コメントする

🔗 シェア

関連度の高い順 ▼



富澤 正徳

さあもう少し！
課程のお風呂と布団が待ってるよ～！！

いいね！ 返信する 2週間



中田 淳子

お疲れ様～！😊

いいね！ 返信する 2週間



コメントを入力...





25WSJ Japan Unit30さんはANA 大阪(関西)空港 - Osaka(Kansai) Airportにいます。...

★お気に入り・8月12日 12:31・泉佐野市・📍

8月12日

関西国際空港に到着🛬

30隊は先ほど解散式を行い30隊としての役目を終えました。25wsjでは思わないハプニングが沢山ありましたが、みんな乗り越えて頑張ってくれました！成長が見える場面も多々あり、私は30隊の指導者をさせていただけて本当に嬉しく思います。

本当にありがとうございました。

#25wsj

#japanunit30

#scoutjamboree



👍❤️ 富澤 正徳、他24人

コメント3件 シェア1件

👍 いいね！

💬 コメントする

🔗 シェア

関連度の高い順 ▾



中田 淳子
お疲れ様でした。
お氣をつけて。

いいね！ 返信する 2週間



Rie Yamamoto
厳しい環境の中、引率本当にありがとうございました。
子どもたちもきっといい経験をする事が出来たと思います。

いいね！ 返信する 2週間



吉村香織
大変お世話になりました。心配もしましたが、関係者皆様のお陰で無事に貴重な経験をすることができたと思います。
ありがとうございました。

いいね！ 返信する 2週間



コメントを入力...

🗨️ 😊 📷 📄 🗑️



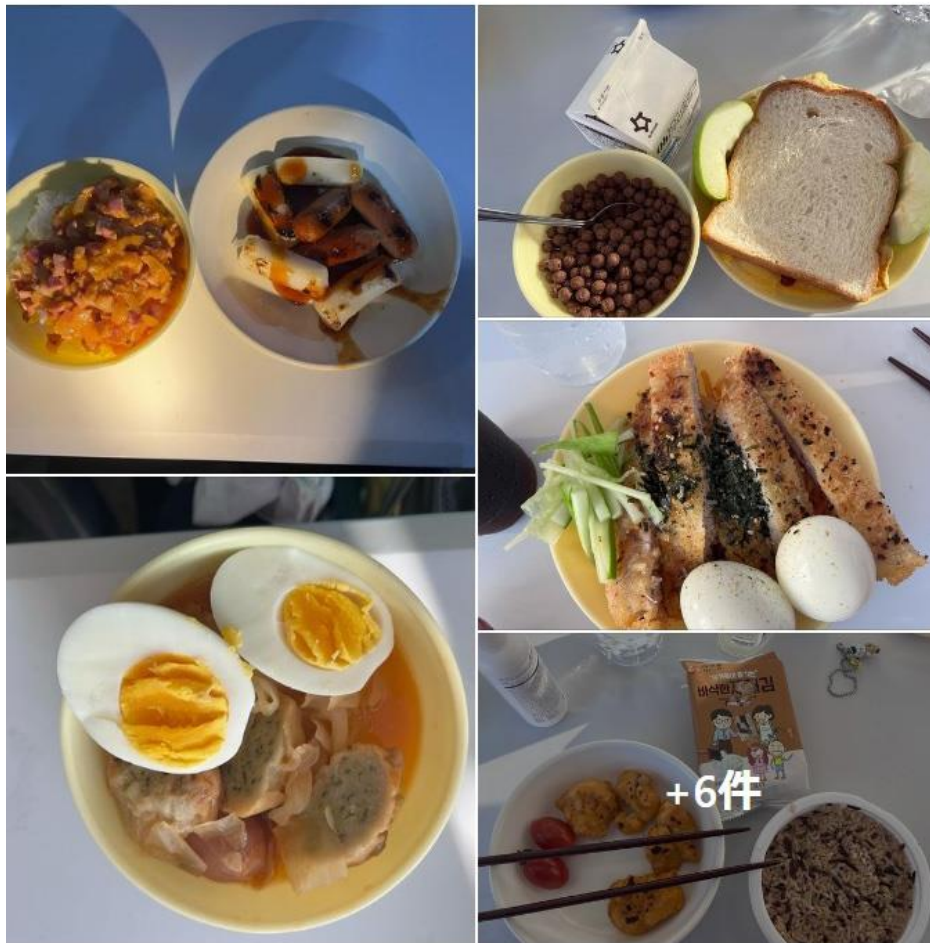


25WSJ Japan Unit30

★お気に入り・8月13日 16:01・🌐

大会中のご飯です。

K-food のときは各班調味料の量を調節しながら自分たちが食べれるからさになるよう工夫していました。



👍 富澤 正徳、他17人

👍 いいね！

💬 コメントする

🔗 シェア



コメントを入力...





おまけ お昼の携行食 (Facebook 未掲載)

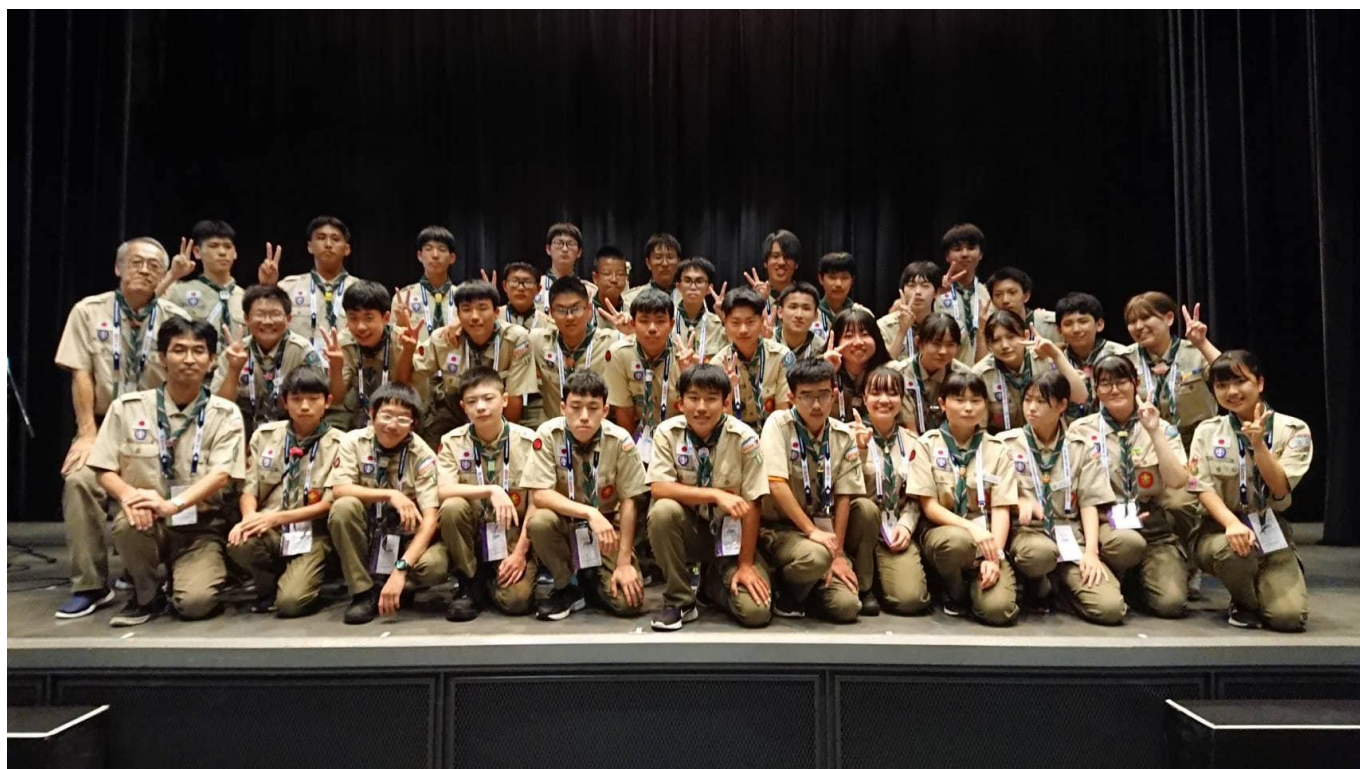


記念写真

2023 年 3 月 25 日 派遣事前訓練 備前市閑谷学校



2023 年 7 月 30 日 派遣準備訓練壮行会 新大阪ユースホテル





2023 年 8 月 6 日 文化交流デイ 日本派遣団の法被姿で



2023 年 8 月 8 日 サブキャンプ 16-27 キャンプサイトを離れる前に



2023 年 8 月 12 日 関西国際空港 到着



第 25 回世界スカウトジャンボリー

日本派遣団第 30 隊報告書

2023 年 11 月 発行

編集

第 25 回世界スカウトジャンボリー

日本派遣団 E 分団第 30 隊

隊長 神庭尚志

Next..



POLAND 2027

World Scout
26th Jamboree
Scout Mondial



***The next adventure
awaits in Gdańsk, Poland
30 JULY – 8 AUGUST 2027***